明治三十七年五月七日第三種郵便物認可
大正十一年九月一日發行（毎月一回一日發行）

THE Y.W.C.A. MONTHLY

女子青年界

九月號

女子青年界第十九巻九月號

敬虔の心と信仰の態度にてかゝれたる八種の良書

著者	書名	體裁	頁數	定價・送料	版	摘要
植村正久著	新の生活	四六判上製	三一三頁 五號カナ付	定價一圓五〇 送料一〇	第五版	
植村正久序 高橋信太郎解	ペテロ前書研究	四六判上製	一三二頁 五號カナ付	定價一〇〇 送料〇六	第一版	一言一句も、著者の血と髓の結晶より成りたるもの也
植村正久序 齋藤勇譯	宗教詩 聖パウロ	四六判上製	一七四頁 天金清楚	定價一〇〇 送料〇六	第四版	マイアズの傑作、セント・パウロの譯書 卷頭寫眞マイアズ
植村正久序 高橋信太郎譯	マルティン ルウテル	四六判上製	二二六頁 地圖と原稿と寫眞三枚	定價一〇〇 送料〇六	新版	本書は、獨逸フライ、タッハの一博士ルウテル」の譯書にして卷頭ルウテルの寫眞は、ルーカス、クラナッハの筆なり
菱沼東洲譯	ミルトン コウマス	小形上製	一八二頁 ポイント字 假名付	定價一〇〇 送料〇六	第三版	處女の貞操と惡魔の誘惑を主材とせる金玉の劇詩（學校家庭劇の好參考）
野邊地天馬著 平井武雄書	舊約物語	四六判上製	三六二頁 大字カナ付	定價一七〇 送料一〇	第六版	面白くて、よく判つて、爲になる—聖書のお噺—兒
野邊地天馬著 南薰造書	新約物語	四六判上製	三六八頁 大字カナ付	定價一七〇 送料一〇	第五版	童文學——各書に美麗なる三色版畫九枚を挿入す
幼兒のよろこぶ 舊新約の繪本	聖書繪噺	四六判上製	大正十一年十一月發賣	定價一五〇 送料一〇	近刊	美麗なる石版刷繪畫四十五枚解說は全部片假名

發行所
東京市麴町三丁目
振替東京七八四七
丁未(ていび)出版社
電話九段六六〇
出版書目進呈

第十九卷第九號

女子青年界目次

大正九年十一月號

婦人之友社の三大雜誌

「婦人之友」

毎月一回　一日發行

一冊金四十錢　郵税一錢五厘

主幹　羽仁とも子

「まなびの友」

毎月一回　一日發行

一冊金廿五錢　郵税一錢

主幹　羽仁もさ子

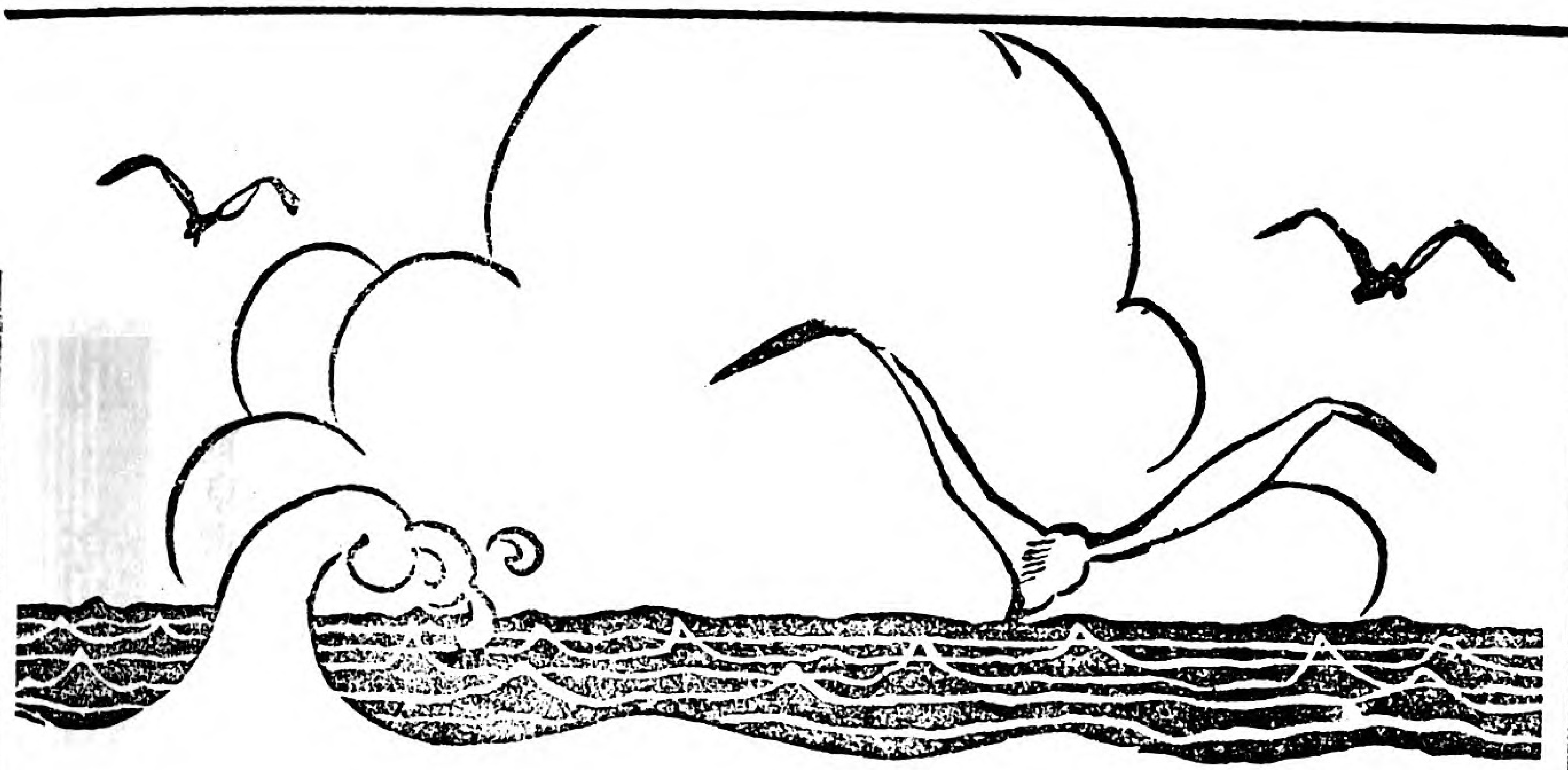
「子供之友」

毎月一回　一日發行

一冊金廿五錢　郵税五厘

主幹　羽仁もと子

東京雜司ヶ谷　婦人之友社　電話番町三六九八　振替東京一一六〇〇



女子青年界　第十九卷第九號　大正十一年九月一日發行

會說

友誼の連鎖

河井道子

行政整理や物價調節其他社會の運轉に御役人や實務家は上下とも皆此炎暑に休暇はなく、平日通りの執務勤勞でゐるに我々同志同僚達は一ヶ月の休暇を貰ふて居るのが何だか相濟まぬ心地がしつゝ八月は福嶋縣下の片田舍に隱居しました。九月よりの氣力を今から貯蓄せんとの決心はありますが、三舍を避くる暑氣と、日頃の緊張の弛みと、周圍の無刺戟とが襲擊して到底會說らしいものは書けません。そこで夏になつてから女子青年會本部に起つた面白い事柄を略記して會說の責を免れんといたします。

近頃新聞紙上に露國飢饉救濟の寄附金募集が屢々記載されてゐます、其に對しては反對では勿論ないが最近の浦鹽にある避難民からまづ救へとの聲が聞えて參りました。左に申上るのは避難民ではありませんが、女子青年會が七月のある豪雨の日に五十一名の浦鹽市某女學校の教師と女學生を二日間御世話をしたことを讀者は新聞紙上で御覽でしたか。彼等は夏休暇を利用して日本に見學の積でしたが、貨幣の換算も知らず日本の物價がいかに高きかも知らず只漫然と來たらしいのです。其で到着直に算段に困り青年會に補助を乞ひに來たのです。彼等がかく無鐵砲に、充分の旅費もなく樂天的に渡來したことは

浦鹽に於ける或一部の日本人の無頓着な勧誘にも幾分か據ることを知つた私共は捨てゝおく譯にはゆきません。其で行處に窮して停車場に居るといふ露國の姉妹方を訪ねてゆきますと、彼等は十七八才の美しい妙齢の娘達で衣服こそ數日の旅行で汚れてはをれ、生々した血色の持主です、日本にきたらば、あれやこれと期待して居たのに、宿泊所さへないとは嘸かし失望と悲みに沈むことだらうと思ひ同情に堪えません。日露協會に交渉しても物質上の補助はせぬと云ひ、鐵道省は出來ぬとのことで、終に青年會が二日間の旅館費用の責任を負ひ、否負はねばならぬことゝなりました。これもたゞ救助などの意丈でなく、國際的友交の立場からすべきだと感じました。扨ていよ／＼旅館にと定まりますと其强雨に彼等中一人として傘を待つてはいないのです。何故ときけば、日本は六月は梅雨だが七月は晴天ときいたからとの返事で、これ又仕方がありません、見れば大抵は白靴を穿き白衣の凉しい姿です。雨の小止をまち黑靴の一隊丈を電車にのせ、餘の多數は二臺自動車で數回に送らせました、其時の大騷は彼等には氣の毒、私共には面白い經驗でありました。三日目は駿河臺のニコライ敎會に無代で宿泊が出來たので私共の責任はすみました。數日後一夕彼等を東京女子青年會に招き食事を共にして、歡迎會の如きものを開きました處、皆は大によろこび、露國の歌や校歌を一齋に唱ひピヤノを彈き、自國の舞踊、スパニシ舞踊等で却て私共主人側の方を欵待し呉れました。彼等の音樂に長じてゐること、到底女學校の生徒とは思はれません、ダンスでも日本の先生方以上の技倆の樣に感じました。若し早くから此人々の渡來を知つてゐて、又音樂が上手なことを知つてゐたらば、音樂會を開催して彼等の旅費に苦む如き憂目はさせずに濟みしものと思つた程であります。兎も角一同御互に親密になり得た感があり、私共はかゝる奉仕の機會の與へられしことを嬉しく存じました。次は支那學生の歡迎であります、六月中に北京

高等女子師範學校生徒廿名が見學に東京に參りました。彼等は自國政府より充分な手當がありますし、又文部省との關係上私共は特別に御助けする必要がありませんでした、私共より是非にと願ひ、一夕東京女子青年會館で食事を差上げ、遊戯等をして樂しく暮しましたが後に支那から立派な禮狀が參りました。此一行中の一人は歸國早々某女學校の校長に選出されたとのことです。僅に數時間を共にしたのに過ぎませんが、彼等が私共と一緒に居つた時が日本にて經驗した最大に樂しかりし一なりときいて、大海の一滴でも決して無駄でないことを今更の樣にかんじました。爰に面白い事實があります、それは此生徒等の敎師の一人は、熱心な信者で、北京學生大會の時に、私共が敬意を表した支那新進婦人です、此先生が一行が歸國した時に日本婦女子に關しての感想を彼等に訊した處、日本女子は敎育は良妻賢母を造るためだと云ふてゐました、私共(支那女子)の樣に善良の市民を造るのだとは申してゐませんが、もう少ししたらば私共の樣に考へ出して來ましよう」と返事したとは、先生自身から聽きました言葉で、何とも申樣のない心地が致しました、讀者中には支那の敎育ある女子が、敎育は人を造るが主眼で男女固有の職分即ち、父とか母とか、夫、妻などは第二の問題であるとし、日本女子の良妻賢母主義の敎育を笑ふて居ることを御存知ですか、彼等が男女を問はず良市民とならん覺悟は私共に大に反省を促します。

七月廿一日は北京の清華學校の卒業生廿九名米國に留學の途次東京に立寄りました。此春北京大會に出席しました日本の男女青年會の代表者數名と彼等の友人とで力の限りをいたしました。先つ自働車八臺を借用して、東京驛から此一行と案内達を分乘させ、諸大學、公園、博物館、博覽會其他の見物を手早くなし、晝食は私共女子青年會の博覽會內休憩室に於て差上ました。御互に北京以來の消息を談り歡を盡して別れました、其時の御馳走は松宮信子夫人

の御上手なサンドイッチ、ライスカレー、氷コヒー アイスクリム、西洋菓子等で、四十餘名の御客で大賑でありました。夕は今文の牛肉屋に一行を御招ぎすることになつてゐましたが、此方は全く男子側に御任せいたしました。

八月に這入つてからは支那の女教師と女學生四人を本部の者が横濱まで出迎へにゆきました、此一行も米國に留學せんとする立派な婦人で、北京にて知己になつた人々です、船の入港が一日おくれて、東京迄彼等を伴ふ暇はありませんでしたが、實に彼等は私共の出迎を喜んで下さいました。「東洋の女が御互に親しくならなければ、眞個に友情などは結ばれません、今度は東京迄ゆき、御婦人方に御目にかゝれませんが、歸國の途次には必らず數日間は滯在させて頂きます」この言葉で別れました、此人々は神戸に上陸したときには神戸の女子青年會にゆき、大呑久子様に會見し、アイステーやら色々と御馳走になつたと大喜での咄でした、「我名の爲に冷水一杯にても最少きものに與る者は其報を失はじ」との主エスの御言葉は確信すべきであります、眞心からの水一杯は國際的友情を間ぐる鏈鎖の一環であります

八月十八日には約七十八人の支那學生が米國に留學の途横濱に立寄るとの通知が又來てをりますが、不幸にて女子青年會の方では是に對して御盡力は出來ませんから男子側に御任せすることにいたしました かゝる際に私共の特別に記憶すべきは、如何なる交際でも、歡迎でも補助でも其が友情の鏈鎖になれるものでないと云ふことです、利己主義な打算から來るものならば、莫大の金錢を擲つたとて、生命を賭したとて價値がありません、之をコリント前書十三章に「假令燒るゝ爲に己が身を付すとも若し愛なくば我に益なし」とある意味でしよう、即ち、神中心にして「我名の爲に」と云ふキリスト中心の交際補助歡迎は個人としても、社會、國際としても有効であります。

かく女子青年會が七八兩月間に他國の學生に奉仕

得たことを御よろこび下さい。

上野の平和博覽會の仕事は七月卅一日にて終り、八月一日には東京女子青年會館に於て岡崎小文姉が女看守の親しき人々を招待して最後の集を致しました。當日多忙な人の多かつたため集り得た看守等は小數でしたが彼等の中より一名壹圓、或は五十錢を出し之を集めて寄附として本會に寄附されし金額は金拾參圓にて十九名の姓名が列記されてありました何て貰い感謝の供物かと涙を以て本會は頂載いたしました。休憩所の家具器物は一切神田駿河臺の休校になつたバプテスト女學校に一時保管されてあります。かく此働もすみ八月十一日には米國から歸朝された山本琴子、中西しな子兩幹事をむかへました、此秋から神の祝福の下に各青年會は活躍すること、樂みにして居ります。

イエスの弟子

郷司慥爾

マルコ傳三ノ一三―一九

耶蘇基督に對して我等の呼び掛ける名が新約書中に四つある。其の内で最も普通なのは「師」である。アラマイック語（あの時代のペレステナの通俗ヘブル語）の「ラビ」は稍や敬愛的意を含み、「我が師」又は「先生」と譯してよからう。第三は、「長」とでも譯すべきものである。第四は、ギリシヤ語の「クリオス」で、「主」と譯される。イエスに對する我等の關係、其の經驗の深さに從つて、彼を呼ぶ名にも變化發展がある。但し今日はこの事を心に留めながら、寧ろ彼に對する弟子と

しての經驗に就て考へることにしよう。

一

イエスはガリラヤ傳道前期の終近く己が事業の擴張に伴ひ、多くの改悔者志道者等の誘導、病者貧者の治癒保護等に對して、秩序と能率との爲めに彼の弟子中から、「組々の長」とも稱すべきものを撰ばれた。其の内から全體に關する任務につく者をも撰定した。即ちペテロは委員長に、ユダは會計に、マタイは書記に、ピリポは接待係に任ぜられたと思はれる。元より整つた組織ではないが、而も之によつて彼の事業はより容易く遂行せらるゝに到つたに違ひない。

「弟子」と譯されてゐるギリシャ原語は、或る人に就て何物かを學ぶ者を言ふ。其處から先生と共に起居し、共に歩くといふ意味も生じた。即ち唯單に師より何事をか習得する丈けでなく、彼と人格的な交り、關係が必然的ともなり、重要にもなつた。今日に於てもなほ師弟の間柄は斯くあつてほしいものであり。物件よりも人物本位でありたい。

二

マルコの弟子撰定の際の記事を見ると先づ其十三節に「其の意に適ふ者は召しゝかば來りて彼につけり」といふ一句に注意を惹かれる。今日では弟子入りでも、學校を撰定するのでも、弟子や入學者の方から氣に入つた人に師事し、よいと思はれる所に入學する。即ち弟子や學生の自由意志の撰擇によるのであつて、假令入學試驗があつたにせよ、「御意に適へる者を召し給ひしかば、來り彼に就けり」とは言ひ難い。而して近代人には此は一見奇異に且つ不合理に聞えぬことでもない。併し深く考へると決して見落してならぬ貴い意味がある。我々は師や學校を撰ぶのに單に外的な皮相な感じや、評判や、空虛な輝きに依つてはならぬ。もつと深い處に目をつけたい我々が眞摯に愼重に考慮を費やして之に當つて、其の決定を見るに到つて回顧すれば、我々は其の決定の動機根據を爲してゐるのは必らずしも自由意志で

はなく、撰定の對象なる人又は學校より來る驚く可き引着力、驚異に價する印象を見出ねばならぬだらうそして自分の心が既に捕へられてゐる事を感じたであらう。此經驗は愛や友情に於ては常により明瞭である。心友や愛人は單なる自由意志の表露からは成り立たぬ。對手の人格の內容に驚く可き美點長所そして夫れは丁度自己の短所缺點を全く補ひ包む事を經驗した時に油然として生起するのである。此がなく、之よりも外的な低級な根底に基いて結ばれた愛や友情の關係は必らず內的には勿論、外的にも悲劇に終るべく運命づけられて居る。即ち彼は我に取りては其の初より終まで驚異であり、賜物でなければならぬ。於是か、「汝等我を撰ばず。我汝等を撰べり」(ヨハネ傳一五)との言が經驗とぴつたり合つて來る。イエスの人格、その內的生活の姿は正に父なる神の賜物であつて、我が目には驚異である。彼は我々の眞摯な熱烈な憧憬を決して失望せしめぬ。

三

改譯には「御許に」又「御側に」と場所になつて居るか、原語は場所を意味せず、「彼に」又「彼と共にである。即ち其の關係が人格的であり、深き靈的交りの經驗である。我が國風にある「側室」などは人格無視の甚だしきものである。彼は決して我々を或る境遇から他のより良き境遇に移したのではない彼自らの心の深奥に我々を迎へ入れる。パウロは此の經驗を「神は知り」と言はんよりも寧ろ「神に知らる」と言ふべきだと言つてゐる(ガラテヤ書四ノ五)。彼は我々の個性に何等かの美點長所を認めて之を愛すればこそ我々を引きて己れに受け入れるのである。私共の住居の近くに、一人の女流洋畫家が住んでゐる。近所に一人の私共には醜いとしか思へぬ一少女がある。彼女をモデルにして畫家は一枚の肖像畫を製作して展覽會に出して入選した。そして天才はかの少女の中から凡人には見えなかつた。美を發見して居る。人には何處か美點があり、其處から全體が又美化し得るものである。イエスの我等を見給ふも又正

に斯くあるのである。感謝に堪えぬ。

四

我々が斯かる意味でイエスと繋がるれば、我々の自由意志の撰擇の根底となる驚く可き力の源泉に堀當てる。即ちイエスに於ける神の意志が根底深く横つて居るのを見る。そこで「我が意の儘にとにはあらず御心にまかせ給へ」と言はねばならぬやうになる。斯くまでに我を認め我を評價し、我を受け容れ給ふならば、如何にとも我を創り成し給へと言はまほしくなる。彼は我れ自らが意識する以上に我を認められるのであるから、心から「御意のまゝに」と言へるのである。我が意志は彼の意志の内に初めて完ふせられるのである。茲に絶體の服從が生れ出る未成品のまゝの自己をも靜かに喜び樂しみ、平和を持して、ぢれたり、あせつたり、悶え苦しむこともない。「汝　かりし時は自ら帶して慾する處を歩めりされど老いては手を伸べて他人に帶せられ、汝の慾せぬ處に連れゆかれん」(ヨハネ傳二一ノ一八)、斯くてもなほ平和は胸中に湛へられるのである。

五

「彼と共にあるは私には最善なり」ウエスレーは言つた。而してイエスの人格、品性、即ち彼の内的生活は到底我々には神秘である。彼の内的生活は神意識の生活」即ち神を父とする子の生活である。父子の間には單なる一致契合の意識があつたのではない品性の類似、意志の一致があつたのである。罪惡の暗影なき生活である。それは神秘ではあるが、決して不自然ではない。我々をして我等も正に斯くあるべしとの感を懷かしめる類のものである。而も彼の崇高な神意識の生活に對しては唯驚異の眼を瞠り、斯かる生活の姿を我に與へ示し給ふた神の賜物に感謝せしめねば止まぬのである。

六

弟子の一人はナタナエル（神の賜物）と言ふ名前を持つて居た。彼は神の賜物は人の努力、敬虔の修業に對する神の報償であると思つて無花果樹下に端坐

して神の賜物を贏ち得んとした（ヨハネ傳一ノ四八）。併し彼は自らの努力によつて神をも其の賜物をも確保し得なかつた。否、彼はイエスに自己を發見せられ（同上一ノ四七八）。神の賜物のイエス自らであることを教へられた（同上一ノ五一）。

ヤコブ、ヨハネ兄弟はボアネルゲ（雷霆の子）の綽名を與へられた。彼等は鋭い洞察力を嚴正なる語氣を以て發表する性質を有して居た。此がヤコブをして夙く殉教せしめたのであらう。ヨハネに於ては更らにイエスの感化によつて高め深め潔められて、永く世道人心の看破者として、ロマ大帝國の嚴正なる批判者、神の民の指導者となつたことはその書簡に殊に默示錄に表はれて居る。

シモンは其の性情、變化に富み、激情的、浮動的で、稍や輕薄、短慮の謗を免かれぬ。イエスが彼を巖と名づけたのには、彼の性格に人に長たり、運動に原動力たる隱れたる才能を認められたのであつたらう。而も彼の性格の變化を豫期せられたことも解せられやう。實際彼は次第に堅實さを加へられて、遂には基督教會建設の大支柱となつたのである。感激の人は原則の人となつて完成に近づいた。

弟子等はイエスを自ら撰び師事したといふに止まらず、彼等に取つてイエス自らが神の賜物であり（ヨハネ傳三ノ一六）彼等は彼によつて發見せられたとの感を深ふした。

七

神の「賜物」たるイエスに師事する者には特種の「任務」が與へられる。賜物に對する感謝が神への奉仕、又禮拜である。禮拜から人への奉仕へと移つて行く。『教を宣べさせ、惡鬼を逐ひ出す權威を用ゐさする爲めに、遣はさんとてなり』（マルコ三ノ一四、五）。御意に適ひ、召され、共にあることを許された者にして初めて新らしい任務に就かしめられるのである。マリアの經驗があつてマルタの人への奉仕が生れ出でもし其の光輝をもそへる（ルカ傳一〇ノ三八―）。人は皆先づ禮拜者でなければならぬ。禮拜なき奉仕者、それは既に宗

教の圏外に立つ。人は神に對して如何なる者であるか。神に對して立つ彼の位地は如何。其處から彼の業爲が規定せられ、實行せられる。元より兩者は一つでは完ふせられないが、而も基督者としては業爲に成功せずとも存在に於て成功すべきである。蓋し世には内的生命に代ふべき何物も存在しないのである。

八

我々の救はれたのは、よし高等な上品な意味であつても、自己準備の感情、享樂の爲めではない。人類奉仕の爲めである。ヘブル書の記者は、我々は無限の價値ある賜物を享けた故に過去の人々まで我々なしには完うせられぬと神國の歴史を觀じた。併し單に我々なしに彼等が完うせられぬ丈けではない、未だ信ぜぬ者が信ずるに到らねば我等自らの救が完うせられぬとも言へる。斯る見地から新傳道主義は生れ出る。强者から弱者への慈善、憐愍ではない。共存連帶の意識からである。

「遣はす」とは「送り出す」である。原語は送る者が遣はされる者に權威を賦與して送り出すの意である。我々は各自神の大使であり公使である。單なる書簡電文ではない。人格として特異な自由な使命がある。機械の果し得ぬ所を遂行する。蓄音機を神は用ゐ給はぬ。危ぶなかしくとも我々各自を遣し給ふのである。

九

「宣教」と「治癒」との爲めにイエスは我々を遣はす。我々各自が受けし驚くべき賜物を告げ示す爲めに、基督教は結局耶蘇基督である。彼が救であり、福音其物である。其の内的生活の力が救ふ力である從つて理論の爲めの理論そのものではない、生活である。イエスの生活を其の言葉と生活とに於て、又我々各自の生活に於て表現するのが「宣教」である「治癒」の願、現代人は癒さるべき多くの惱み痛みを有する。内外より打ち寄する擊動に深い傷手を負ふて居る。癒されたいのは肉の疾患ではない。其の

背後に根底に横はる不安、燒躁、不滿、更らに適確に言へば「罪惡」より救ひ出されたいのである。大阪市外の結核療養所の患者が血を吐きつゝ彼等の所謂「地獄」を飛び出したのは彼等が單に外的でなく內的に癒されたいと願つてゐることを語つて居る。我々は斯かる任務を帶びて遣はされる。家庭へか、學校へか、會社商店の事務所へか、工場へか、研究室へか、

一〇

一九一三年五月蘇國エデンバラ市に開かれた同國一致自由長老會總會に於て印象深き光景が演出された。彼のアフリカの傳道者リヴイングストンの孫ウイルソン姉弟が姉は傳道女學校を卒えて、弟は大學醫科を終つて相携えて祖父が斃れたチタムボーの小村に赴かうとして、行はれた任命式である。「宣教」と「治癒」との爲めに、五十年の後祖父の遺跡に赴く。集會者は深く胸打たれて、悲壯な淚を禁じ得なかつた。殊に彼等の母、大傳道者の忘片身たるミセス、ウイルソンの健氣な態度に使徒時代の熱情と義勇の復活を觀取したのであつた。

優しい心

栗原基

英語に『デリケシー』(Delicacy)と云ふ言葉があります。大きな字書を見るとこれに十四種類意味を説明して居ります。始めは肉的歡樂の義に用ひ、次に纖弱巧緻となり、猶進んで道德的に極めて纖細優美の意を示めすこととなりました。つまり此言葉は始めは肉に關する意味から始まり、時の移ると共に靈的

關係、精神的態度を示めすやうになつた傾向をもつて居ります。云はゞこれは文字の進歩です。文字には意味の下落するものも澤山ありますが、また此言葉のやうに段々善くなるものもあります。

十四世紀の英國詩人チョーサーは此言葉を歡樂貪慾の意味にて用ひましたのを始めとし、當時の文學者の多くは同じ意味でこれを使つて居る文例を遺して居ります。同時代の詩人ガワーは美味の意味でこれを用ひました。少しく進んで十六世紀になりますと、『特に知的觀念に心地よきもの』、『美』、『纖麗』となり、『構造、本質、仕上げなどの纖細なること、』『弱い優しいおもむき』となり、『むかし美はしかりし老ひの顔にも、優しみのおもかげ偲ばしむるものがある』と云ひ、『頑丈なつくりも纖麗を失はぬ人』など云つて居ります。

十七世紀以後の此言葉の用法を見ると、『體質の薄弱、』所謂蒲柳の質の意を現はし、『容易に病氣に冒されること』となり、『女性のかよわきにも似ざる勇ましさ』とか、『彼女の體質のよわきためか、氣候のためか』云々など書いてあります。十八世紀以後になりますと、『取扱上特に用意周到なるべきこと』などの意が加はり、エドマンド、バークは『印度に對する吾人の關係は至つて細やかな注意を要する事柄である』と云ひ、それが自然『自分の計劃した仕事の至難なること』と云ふことになりました。次にこれが『感情、觀察の精細、精緻なること、』『明敏、』『恥辱』『他の心に同感する優しさ』『善惡判斷の敏感』『微妙な良心の觸感』と云ふ意味を有することになりました。

ヘンリー、ヴン、ダイクの小話の中に『窓の使者』と云ふ一篇があります。マーセル、ツボーは島が島の燈臺守であつて、至つて岩丈な男らしい人であつたが、普通人のやうに、別に聖人でない丈けに、缺點もありました。特に親の代には、まだ燈臺もなく破船の獲物を拾ひ取ることを一つの仕事として居つた程でしたから、自分も其間に育ち破船の獲物など

平氣に考へて居りました。

或日ツボーは近くの島へ用事があつて夕暮歸へり路につきましたが、何か舟の底に當るものがありますから、舟を停めて見れば、水死者の屍體で、兩腕を擴げて身體のつりあひをとつて居るやうに見えました。そして左手の小指に大きな眞紅の寶石を入れた金の指環がはめてあります。死人に指環の用はあるまいと、早速左腕を舷側に上げて指環を拔き取らんと試みたけれども、脹れ上がつた小指からは容易に取れそうもない。ツボーは側にある斧を以て小指をチョン切つて、難なく高價の獲物を手に入れて家に歸へりました。

妻のナンシーは早速夫のために夕餉を整へて、食卓を距て差向ひに座りましたが、何となく夫の樣子が氣がゝりでなりません。今日は何事かありましたでせうと尋ねますと、夫は大きにうなづき『それはよいことがあつた』と云ひも果さず、窓に衝突したものがあると思ふと、其處に大きな手が現はれました。妻はそれと知らずに窓を開きて、十二黃（キレンジヤク）と云ふ小鳥を拾つて來て、『これは唯事じやありません、あなたは何か白狀することがあります。今の中に早く白狀すれば、神樣の御叱りを蒙りますまい』と眞劍です。そこでツボは指環を出して食卓の上におきますと、ナンシーも驚く其大きな寶石の光り どうして手に這入つたかと尋ねますと、波が持つて來たと云ふ、それはまた可笑しなこと、波に重い指環が浮く筈はないと訝る妻も尤ものことです。すると又窓に當つたものがあります、其處に大きな手がうつりました。あつと驚き入つて居る中に、妻のナンシーは黑鳥の氣絶したものを拾つて來ます。さああなたの罪は恐ろしい、此鳥のおとずれは唯事ではないと迫られて、ツボーは遂一事の次第を白狀して居ると再び大きな響きと共に窓のガラスが破れて落ち、大きな小指のない手に血が滴つて居るではありませんか。妻は三たび窓側へ行つて今度はイスカと云ふ鳥を拾つて來ます。これは十字架の基督の痛ましさを

鳥ながらも悲しみて手の釘を抜き取らうとして嘴は食ひ違ひ、頸に血がついたと傳へられて居ります。

妻は一刻も早く指環を元の處に返へして此罪を赦される外はないと、夫をせき立てゝ共に小舟に乘り潮路遙かに漕ぎ出でゝ、曩に屍骸の浮いて居つたと思はれた處に行きました。今は目標とすべきものもないが、大事な指環を海に入れゝば、波は靜かに之れを受けて波紋を造り、月は眞紅の寶石に映じて一瞬間の光華を添えました。其夜深け曉近き頃母は一人の男兒を擧げた。それが此物語りをする當人なのです。

此物語は至つて平凡なものゝやうですけれど、これを味つて見ると、其處に云ひ知れぬやさしい心が宿つて居ることに氣がつくでせう。指環が死人に用事はない、産れんとする子供のみやげにした方が遙かに實用向きであり、經濟的であるやうに思はれます。しかし人間の良心の微妙な働きは死者に對しても禮儀を失つてはなりません。勘定以外の心理が何時も人を明い方に導かうとして居ります。

豫言者エリアがホレブ山頭に於て聞いたと云ふ『靜かなる微細な聲』も必竟するに、彼の良心に導いた神の御聲であつたので、これによりて彼は一代の難局から救はれて、遂に宗敎改革の大事業を全ふすることが出來たのです。

世には見えるものと見えぬものと二つあります。我等の微妙な心の働きは決して見えるものに滿足しないで、何時も見えぬ世界に行かうとして居ります。現象世界は感觸の世界であつて、下等動物でも容易にこゝに安住し得るけれども、不可見の世界は五官を超越した境です。其處は人間でも文化生活に進み心靈の活躍を味ひ得る心の所有者にして始めて享樂し得る貴きものがあります。靈の橋を懸けて現象世界から霞棚引く彼岸に達する歡喜は一つの飛躍であつて、精神的遊戲の最も貴きものです。心の卷鬚が何か高いものにすがり付かうとする時に、我等の靈が伸びて行きます。

一面から我等の生活を吟味すれば、何時も此方面を見逃すことが出來ません。例へば嗜好とか、心がけとか、つゝしみ、禮儀正しいと云ふやうなこと、或は種々なる藝事、料理、服装、色の調合、装飾、などいづれも現象の世界にあり勝ちな現實の壓迫から遁れんために試みる心の努力です。

斯る心の表現として音樂を考へて見れば、好く音樂美を味ふことが出來ます。藝術とは決して單に指頭の巧みでなく、心靈の温みの表現であり、やさしい心の産物です。多數の音樂隊の銘々の音樂者が種々なる樂器を携えて、各々異つた音色を出し、微妙な響きの香りを發して居る時に、彼等は悉く一生の悲喜哀樂の情緒を其處に洩らして居るのです。

同じヴン、ダイクの小品文に『ヒユモレスク』と云ふのがあります。これは有名なッポルシアクの名吟でありますが、二人の若き男女の情のもつれを主題とし時々此名吟がこれを結びつけ、遂に兩者の心の調和を見出すに至つたと云ふ筋を美はしく物語つたものです。音樂の微妙なる働きは世の進むと共に人の好尙を高め、其心靈の蟠みを純化して呉れます

次に優しき心の表現として言葉使ひのことを考へて見れば、一般に敎育ある人は好き言葉を使ひ、敎育なき人は惡しき言葉を使ひます。上流の人々は上品な言葉を用ひ、下流の人々の言葉は如何にも卑しいものです。楚の項羽と漢の劉邦は共に秦の天下を覆さんとして居りましたが、偶々秦の始皇が威儀堂々として行くのを見て、項羽は輕卒にも『取つて以て代るべし』と云つて傍らの人の注意を惹き起し、劉邦は『嗚呼大丈夫當に是の如くすべし』と稱賛したと云ふ話があります。同じ天下を取らんとの志を現はすにしても、兩者の言葉使いの差によりて、所謂不敬事件ともなれば、士風掬すべき言葉ともなります。言葉程發し易くしてしかも使ひ難きものはありません。それ故にラスキンは一字一句の微にも人格のおもかげを偲ぶことが出來ると云うて、文章洗練に人格の修養を怠りませんでした。

私が海外旅行中意外に感じたことは、英米兩國即ち英語を話す國にありては、兎角英語で話すことが空恐しいやうな感じをなし、却つて歐州大陸に渡りて佛獨伊に於て其國人の前では、至極大膽に英語を使ふことが出來ました。これは英米兩國に於ては、成るべく其國人に笑はれない丈けの言葉のつゝしみを感じましたが、歐州大陸に於ては　どうせ英語は御互に外國語であるから、意味が通じ用事が辨じさへすれば、それで目的は達せられると云ふ心持ちであつたのです。即ち微妙な上品な言葉使ひは歐州大陸に於ては必要なかつたのです。これは急ぎの旅行者の言葉が何時も露骨で趣味に乏しくなる譯けです船乘りが何處へ行つても言葉が通じますが、決して本當の言葉を習得し得ないのも、これがためです。コロムビア大學總長のバットラーが教育ある者の一つの特色は自國語を最も完全に使用することにありと云つたのは味ふべきことです。

人間が分れて男女となつたのは性的生理の必要から許りではありません。生理的に男子は何處までも男子で女子は何處までも女子である通り、心理的にも社會的にも精神的にも兩者に截然として分れたる領分があります。婦人が新しく覺醒し社會的活動を開始したとてこれは決して男子の模倣であつてはなりません。女性は男性の模倣でなく、男性の企及し得ざる聖地のあることを忘れてはなりません。これを聲樂に見ても、男子はバースやバリトンに於て成功し、女子はサプラノやアルトに於て其天分を示めします。稀れに女聲が男聲の分を司り。男聲が女聲の分を司ることがあつても、それは常例とはなりません。米國には女巡査がありますけれども、其職分は兒童保護や醜業婦の救濟などに傾き、自然男子の巡査の遣り方とは異つた方面に新しい領分を開拓して居ります。

女性の發揮が母心となり、これが社會的に活動するに至つて始めて徹底した社會事業も出來るのですこれまでの社會事業が男子の手のみによつて行はれ

たとすれば、社會事業の女子の手によつて營まるべき領分が未だ開拓されてない事を示めすものでせう

伊太利のナポリに『アンヌンチアタ』と云ふ尼寺があります。古來こゝは官設の棄兒所となつて居り社會改良上婦人の保護事業として偉大なる功を奏し新しき伊太利の曙光を示めして居る所です。今は廢物となりましたが、厚い壁に丸い穴が明けてあります。其處に回轉する箱がついて居つて、夜蔭に乘じて若き婦人が涙ながらに嬰兒を外からこれに入れて廻わします。すると壁の內側に不眠番をして居る尼さんが之れを拾ひ上げ、天から授かつた子として之れを育て上げるのです。現今では伯爵ポンチがこれが長として最も進歩した方法で經營して居ります。

同じナポリでもう一つの呼び物はチビタ女史の營んで居る『ナヴエ、アシロ』(海の收容所)です。これは『カラッサオ』と云ふ古い軍艦に百名餘の道路兒を收容して居る斬新な感化院です。チビタ女史はこゝを根據として伊太利感化事業界の女王として偉大なる功を奏して居るのみならず、其奉ずる敎育主義は今や世界の耳目を聳動せん勢を示めして居ります

倫敦目貫の場所、トラフアルガー、スクエアーに『聖マルテン』と云ふ寺院があります。夜になると老若男女の家無しの貧民が堂內に這入つて、椅子の上に一夜の安眠を取ります。僧侶は隈なく堂內を廻りて、疲れたる人々に毛布をかけていたはつてやります。週日に宗敎は說かないが、かうした優しい同情ある寺の事業が如何ばかり貧民に好い感化を與へるかは想像以外です。此寺の牧師は爵位も高く、皇族貴族と交はつて居る貴人ですけれども、貧民の友となりて、せめて彼等に人生の疲勞を癒やさせやうとの優しい心は如何にも慕はしいことゝ思ひます。

女子が男子を模倣して時代の要求に應じ得ないよりも、舊式でも小さい目覺めぬ女性として其分を守つて居る方が好いことがあります。女性=母心=神心=これ婦人に求めつゝある社會の叫び聲であつてラケルが子なき故に悲み慰めを得ないとすれば、ラ

ケルが無いために哭いて居るヒューマニテーはそれにも増していたましいことです。

「優しい心」即ち「デリケシー」と云ふことは婦人に於て最も美はしき花が開き實を結ぶことは人類の歴史あつて以來の神の契約です。

（一九二二年八月二日、京都に於て）

永遠のキリスト

ドクターアキスリング

The Christ of the ages　永遠のキリスト、是れは非常な問題で、此問題を話さんとすれば恐れ慴くより外はないのである。ヘブル書一ノ一—二「神昔は多の區別をなし多の方をもて豫言者により列祖に告給ひしが、此の末日には其子に託て我儕に告げたまへり神は彼を立て萬物の嗣とし且かれを以て諸の世界を造りたり。」同九ノ十二「羊犢の血を用ず己が血をもて一度聖所に入て永遠贖をなすことを得たり」。同十三ノ八「イエスキリストは昨日も今日も永遠も變らざる也。」

吾々がヘブル書を繙き研究する時、本書の作者が筆を取り此文を書んとする時に一つの幻を見た事を感ぜざるを得ないのである。彼は此研究の後に、自分の民族の歴史の後に引いて世界の歴史の後に偉大なる力の流れ出づる一つの大源泉、一つの絶大なる人格者を見出した。ヘブルの作者が此天地宇宙、自己の民族の歴史、世界の成行を見た時、世界各國の歴史を見た時に、此の廣大無限の歴史の後に於て、世界の歴史の後に於て一つの偉大なる人格者の存在及働のある事を痛切に感じたのである。其源泉たる

や、人格者たるや即ち永遠のキリストである。故に彼は永遠のキリストを始めとし中心とし又終となしたのである。

ヘブル一章二節には「此の末日には其子に託て我儕に告給へり神は彼を立て萬物の嗣とし且かれを以て諸の世界を造りたり」原語によれば、諸の世界は諸の ages を造り給へりと言ふのである。如斯くして此文の作者が此天地宇宙の中心に於てキリストの存在御業、キリストの指導を痛切に感じて十三章八節に於て言はんとして言ひ盡し得ぬ結論に到つたのである即ちイエスキリストは昨日も今日も永遠も變らぬ永遠の主なる事である。今吾々は祈の中に聖靈の力を受けて作者の心を味ひたいものである。

過去のキリスト現在の基督、將來の基督彼が三世を通じて一貫したる無邊の目的に向つて宇宙の凡を世界の凡を人類世界の凡を包むことを明白に感じるのである。吾々も彼の踏んだ順序を踏んで彼と同じ自覺に立ちたいものである。

第一に過去のキリストを見れば、彼のスコットランドは十六世紀には最も未開暗黒の時代であつた。スコットランドに於て思想の混亂、人心の動搖、國家の不安全は其極てあつた。此國の民族がありとあらゆる方面に於て暗黒に迷ひ危急存亡を極めて居た時あたかもジョンノックスが主義と主張の爲島流にされたが或日ジョンノックスを呼戻せとの叫が出で山々谷々に響き、晝夜に渡る叫びの響は、遂ひに當時のスコットランド當局が此國民の輿論に反對する事を恐れ、ノックスを呼戻し其指導を仰ぐ爲に歸島させた。神中心の人ノックスは國に歸つて來るや否や、國民の上に大變化を來しスコット人を光明に導いた。ノックスと言ふ基督に囚はれた人物が歸國して起つに至るや、國そのものが未開暗黒から救はれた。これはたゞ一例に過ぎぬ。逆つて人類社會を見る時こゝにも未開暗黒はあつた。人類の中には道德的觀念はなく奴隷、一夫多妻の制度が行はれて居た人と人との階級の間に無慘の行があり、人類全體が

墮落して居た。世界人類は眞暗い中に迷ひ迷ふて居た、其時に天地の主はパレスティレンの中に奇蹟中の奇蹟を行ひ給ふて卽神と人とを表現する人物か其中に生れ出た、唯一の救主が出給ふたのである。基督が世に出で給ふやいなや到所に社會の道德が高められ、人と人との間の階級的行動が一變し、家庭が淸められ、婦人が高められ、奴隷が廢され、世に大變化が起つたのである。彼は過去の世界に於て風俗習慣力、社會の生活力、人の理想、主義、世の文學美術、歷史などを悉く根底から一變せしめた而して世界人類を光明に導き給ふたのである。彼の出現前と後とには天地の差がある。卽基督の感化と生命とが流れたる所には物が高められ、淸められる事は否むべからざる事實である。過去の基督は變化の主である。改造の主である。其結果として基督によつて救はれた人は現狀維持を以て滿足する事は出來ぬ。直に夢を見、幻を見る改革者、革命家となり神國の建設者となり、時代々々に新なる運命を切り開いて行つたのである。例へば英勇豪傑、ノックス、ルーテル、リピングストン、リンコルン、新島襄、本田庸一、江原素六氏などは皆其例である。かくて基督は世界の文化發展の中心となり給ふた。聖の聖なる世界の最大の人物である。

次に現在の基督に就て、過去の基督は世界人類の上に計るべからざる恩人である事を考へて驚かざるを得ないが今日猶基督が變化の主改造者であり給ふ非常な勢で世の中に働き、新世界を造り、人類の爲に新な世界を造り給ふ事を考へなければならぬ。昨日も今日も過去に於けるが如き偉大の働を吾人の前になしつゝ居ます事は著しい事實である。華府會議中德川全權はクリスチャンが日本の家庭、國民生活を根本より改造せしめて居ると答へられた。日本の敎會は力なく、微々たるものながら更に基督の廣く又深く、我日本社會の中に來す偉大なる奇蹟を見落してはならぬ、我日本の社會に基督が新しく臨みて偉大なる變化を來しつゝある。又廣く考へて見る

と華府會議そのものが基督の奇蹟を充分に現して居るのを見るのである。後世の歴史家に此會議は世界の一轉機を示す物に數へられるであらふ。平和の君を仰き、平和の君の精神を自分の精神となし根底から戰を取り去らんとす。此れは歷史に於て類のない事である極端な自我的精神を捨て世界の幸福、人類の幸福を計る基督の主義主張を我ものとし國際間に試んとしたのはあの會議が初めてのものである。華府會議の中には始めから終まで祈の精神が燃えて居た。閉會の祈が捧げられた迄彼の會議を支配したものは基督の思想である事を誰でも感じ、公に人の前に是を言ひ現した人が少くなかつた。同會議前には國稅國財を增加し狂氣の如く軍備を擴張して居た、若もあの勢で軍備擴張をしたならば世界は不幸である然るに本會議によつて軍備は縮少されたのである米人は自然的平和主義者である。人は何と言ふとも米人は戰を嫌ふ民で、世界平等主義を取るは米人である。そは子供の時から基督敎の感化を受けて居るそして基督敎の平和が深く刻み込まれ、無意識の内に是れが支配を受けて居る。例へばブリス中將の如き戰が終を告げ、平和となり歸國するや其翌日講壇に於て熱心に平和主義、軍備縮少論を述べ始めたのである。又華府會議の前に多大の廣告料を拂つて平和主義の文章を重な新聞雜誌に出し或は、同會議中、二ケ月半の間に於て千四百萬の米人が電報、手紙、意見書がハーデングなり或はヒユース氏に送り平和主義を述べ軍備縮少を要求した、婦人、子供を入れて國民七人中一人が平和運動に參加した。

華府會議に於て我日本の代議員の唱へた說、主義は米人の心に好印象を與へ今猶消えざるものを殘して居る。日米兩國間の誤解も最後に日本人が彼の決議に到らしめた事を信じ其跡を消し以前の如き親善の火が燃えあがらんとして居る。

秘密外交が今日迄行はれたが華府會議に於て秘密外交は廢され爭をぬきにし、打明けた懇談的の會議が開かれるに到つた。人種の區別なく、胸襟を開い

て、世界同胞主義の爲に相計る樣を見て神に謝せざるを得なかつた。四國條約の結果として世界の戰爭を殆んど不可能にした、此爲に太平洋方面の人は爭を見る事がない。支那が國際間の問題となつて人々が踏付けて各國の利害の爲手玉に取られて居たが各國が方針を變じ支那を踏付ず是を保護し、其發展の爲に努力せんとするに到りありとあらゆる方面に於て四海同胞の爲に盡す誠が現れて來た。然らば譽を誰に歸すべきか、現在の基督に歸すべし、榮光を過去の如く今の世に大奇蹟をなし、大改造をなしつゝ神の平和の國を建設しつゝある基督に歸す可である

將來の基督について、ヨハネ十六ノ卅二―卅三、ルカ十二ノ卅二に「爾曹世に在りては患難を受けん然れど懼るゝ勿れ我すでに世に勝てり」「小さき群よ懼るゝ勿れ汝等の父は喜びて國を爾曹に予へ給はん」とあるが、主なる基督は勝利の基督である。彼には不可能と言ふ事がない、勝利の主としての言葉である。基督の救の計畫を實現するには失敗は決してない、失敗と見ゆる者も遂に大勝利となり得る。信仰生活の爲には苦い經驗をする事がある、艱難辛苦を味ふも、最後の勝利は基督にある故に彼れにある者は皆此處に凱歌を唱して進み行く事が出來るのである。改造の過去の主、人類の爲に新なる道を開き給ひし主は現在奇蹟を行ひ給ふ主は將來の正義、神國建設の爲に勝利を示さんとする主である。

社會の動亂人心の混亂の中に吾々クリスチャンは基督によつて改革者となり、豫言者の眼を持つて將來を見、周圍の人々に基督の光を輝かせて、神國建設、國家の基督敎化の爲めに熱望して止まないのである。基督は決してぼんやりした過去の影を與ふる方でない、二千年前の人たるのみならず、吾々の中に勝利を得させ給ふ方である。永遠の基督につながり、彼にならいて與へられた立場に起つて使命を忠實に完ふせん事を熱望して止まない。

（在文責筆記者）

現在の日本文學に現れたる基督教思想

中山昌樹

現代の日本文學といつても其範圍は極めて廣い。其上私自身専門に文學に携つて居る者でないから全體として話す事は困難であるが、考へて居る事を少し述べて見たいと思ふ。日本の文學が昔からの遊戯的氣分を脱し、自覺の上に立つて自己の悲しみ喜びを文學に現はさんとするやうになつたのは日露戰爭後の事であると思ふ。之は勿論全體としての事であつて、其以前には自覺した人々が皆無であつたといふのではないが、けれど文學の中心は紅葉とか蘆花とかいふ人達であつて、金色夜叉だの不如歸だのが社會から喜ばれて居た時代であつた。今日ではそれらのものが活動寫眞等に仕組まれて民衆の娯樂となつて居る。

日露戰爭に於て日本は勝つたが思想の方面に於ては慥に彼に征服せられて終つたのである。大陸文學は其以前に於ても日本に紹介せられては居たが、戰後大勢力となつて入り來つたものである。私自身の事を云へば、私は當時明治學院に在學中であつたが神學部の課程よりもトルストイ、ツルゲネフ、イプセンのやうな北歐の文學に興味があつた。之等のものゝ善惡はとにかくとしていろ〳〵の感動を與へられ、苦しみもし考へもした事は事實である。今日盛

んに活動して居る賀川豊彦君や加藤一夫君とは同級であつたが二人ともトルストイの感化を非常にうけ賀川君は彼の人道的方面の感化を受けて活動し、加藤君は彼の無政府主義的傾向に徹底せんとした。日本全體としても之等の文學者は青年の思想に非常な影響を與へ、今迄のやうに甘たるいものでは滿足出來ず、もつと眞なるもの現實なるものをと求めるやうになつた。現實主義は自己の考を土臺として生活し、例へそれが醜なるもの舊道德に反するものであつても意とせずに進むのである。實に此時代は現實主義（自然主義）の風靡する所であつて、造花的の美しい文章よりも、人性の實際である憎しみ憾み情欲等の方面を描寫する主義が文學界を支配し次で人々の實生活に迄及んだのである。

手術は痛々しい部分をも仔細に見た後でなければ出來ぬと同樣、人性の實相を細く見つめ徒らに感傷的なものを退ける自然主義は、或方面に於ては慥に貢献する所があつた。然し見つめてのみ居ては我々の向上せんとする精神は堪へられぬ。低い所に停滯して無理想無信仰では到底人はやつて行かれぬものである。之等を永く退けて置く事は人類の運命を自滅さす事である。斯る所から自然主義に反して起つたのは所謂白樺派で武者小路氏等が其中心であつた此派の人々は人性中には高きもの美しきものがあると主張した。其著書は讀者をして低い衝動に刺激せしめず、眞なるもの善なるもの美なるものに近づけんとしたのであつた。人は之等の書に接して自然主義に推し込まれて居た思想の窓を開かれ青空を見、人生の價値や自然の美に對して積極的の態度を取り得るやうになつたのである。武者小路氏は人生の價値を何所迄も認め一切のものに對して肯定的であつた。同氏の著書には屢々神といふ語が用ひられて居る、其語の內容は勿論漠然たるものであるが。同氏は眞善美の理想としての神を認めキリストも餘程尊敬して居る。彼の著書「耶蘇の序に自分は耶蘇の事を思はずに日を過す事はないと云つて居る。彼の努

力は更に進んで終に新しき村となつて現れるやうになつた。

右の如く此派の人々の思想は自然主義時代のそれとは大に其趣を異にして居た。即彼等は人生を肯定し理想を認め之を實現する爲に努力するといふ英雄的行爲に迄進んだのである。之に對して批評を加へれば、武者小路氏は少し強過ぎる程の自信を有つて自己の信ずる所に向つて進んで行くやうに勵ましてくれた。彼の云ひ分はいつも餘り強そうに聞えるので或人は武者小路大將といつた程自分を信ずる事が強い。彼は人類と欲望を一にする等といつて居る。基督教の立場から考へて自然主義には大反對であるが、白樺派の主張にも全然一致し得ないものである基督敎は神に於て吾等の價値を認めるのである。「神に於て強し」といふ。自己の價値を認めるにしても基督敎に於ては神を其對照とする。決して自己にのみそれを認めない。武者小路氏の自己を認める主張には彼が常に口にするハンブルネスと矛盾するものがあるやうに思はれる場合がある。

生活の改造を企圖せる新しき村にも價値はあるが現實の世界を離れて模型的なものを作るのは贊成出來ぬ。此世界が善いとか惡いとかいふ事は別問題として、私共にとつて此社界以外に住む所はないのである。新しき村を企圖した武者小路氏の動機は至極よかつたが手段はよろしきを得たものと云ふに私は些かの躊躇を感ずるものである。若し人類の改造を志せしならば、此社會に彼の有する意氣を投ぜられたきものであると思ふ。

オーガスチンも斯樣な事を企てやうとした事があつたが、すぐ其駄目な事を知つて止めて終つた。要するに此社會をはなれては社會を改良する事は出來ぬのである。我々は武者小路氏の運動に價値を認めると同時に之を批判して行かねばならぬ。

次に有島武郎氏に就て一言したい。彼は濃厚な基督敎的の空氣中に敎育せられ、リビングストンの傳記を翻譯したりしたが、後には全く基督敎から離れ

て終つた人である。彼の主張は自己を深く見つめ一切の虛僞からはなれ、どんなに立派に見えるものでも、それが自分自身に眞ならぬものはいけぬといふのである。自己を瞞着せず眞摯な努力で自分をよくして行かうとする。例へば基督教の生命すらも與へる愛は理論としては實に立派であるが、愛の本質は實際そのやうなものではない。愛は「惜しみなく奪ふもの」である。之が愛の眞相であり實際の有樣であると彼は云ふて居る。階級文學に對しても彼はブルジョアーとして立つより仕方がないと云ふ。勿論自分は第四階級の人々に對し同情は出來るが、やはりブルジョアーの作家の捲外に出づる事は出來ぬとは彼の主張する所である。之に對して少し批評して見たいと思ふ。有島氏は今迄犧牲的の愛といふ事を敎へられて來たが、それが充分に行はれなかつたので他の極端に走つて終つた。成程彼は財産も多くあり、生えぬきのブルジョアーであるが我々には自己の生活以外に出づる可能性がある、有島氏は自分を餘りに見つめた結果、自己の經歷境遇以外に心を廣めて行く事の出來る事を氣づかれぬのではあるまいか。且自分を本當に知るといふ事は、神の前に自己を照して行く事によつてなされるのである。宇宙の根底の實在である神の前にこそ眞に自己を見出す事が出來るのであると思ふ。

有島氏が再びもとの信仰に歸らるゝを切望すると同時に、彼の讀者に對しても、彼の著書により自己を眺め反省すると共に、も一歩進んで宇宙の根本的實在なる神の前に、自己を持ち出して行かるゝ事を望んで止まぬ。

最近に於て吾が文學界を風靡して居るのは倉田百三氏　西田天香氏、賀川豐彦氏の三人である。之等の人々により日本文學は宗敎的なりと云はるゝやうになつた。三人に就ては六月の中央公論に田中王堂氏が委しく批評して居られる。倉田氏は病床にあつて外部的に多くの束縛を受けて居られるからでもあらうが一番深い感銘を與へられる。彼の根本的の考

は世界は愛、絶對的、普偏的、宇宙的の愛なりといふにある。彼は愛によつて安心して居る。我々一人一人の考へは要するに借りもので、自分自身の思ふやうにしたい、得たいといふのは不可能な事である人間の最も尊い望は宇宙的の愛に同化したい、花の美を自己にうつして自他同一の心境に到達したいといふにある。之こそ眞の愛である。個人的の愛をすて、世界的の愛に憧れやうといふ。右のやうな考へ方は種々の苦い經驗にみちた人生にあつて世を憾みはかなんで、すねて終ふ事から我々を救ひ出し、冷やかなる事があればある程愛でなければならぬと感ぜしめる力がある。愛は與うるもの、祈るものである。若し斯樣な心がなければ其愛は間違つて居る。人と人との間にあつて裏切られた場合に、其人の爲に祈る迄に至らねばならぬ。宇宙愛に徹すれば斯樣な愛の實行は不可能ではないと彼はいふて居る。田中王堂氏は中央公論誌上で絶對愛を否定して居られる。基督教の神は正義であつて罰する神である、決して絶對愛の神ではない。基督教の神は最も近代的思想によつても支持せられる神であると論じて居る

基督者の立場から倉田氏の思想を見ると、そは一種の法悅的感興であつて、幾分實生活とかけ離れて居るやうな感を與へられる。自己の生活に價を認めずしては他人の生活に價値を見出し得ぬ。倉田氏の書は我々の感情にうるほひを與へるが、實生活にあてはめるにはもつと意志の方面に力を要すると思ふ

我々は眞面目に考へて居る人々の著書から慰と力とを受ける事があるが、基督教の立場から充分善惡を批判せねばならぬ。

西田氏のは勞資の協調といふやうな實際的の要求から出て居ると思ふ。誰でも眞面目に考へる人は自

分の言ふ事と自分の實生活との間の隔たりに苦しむ西田氏は自己の信仰を極く低い小い所から實行する事に努めて居られる。例へば人から説教を頼まれた場合、其前に「草取り」とか「便所掃除」とか、何か用事をさせて貰ふ。それも「光」に對する感謝の念からの奉仕としてなすのである。基督教の生活がもつと信仰を實行に、奉仕の精神を實際にあらはして行くものでありたい。或人は西田氏を評して餘り受動的であつて一種の奴隷の道德である、社會改良家はもつと能動的でなければならぬといふ。然し生活と信念との一致には誰しも感心するであらう。

最後に若し日本に基督教の文學がありとせば、そは賀川氏の著書であると思ふ。實際彼程にイエスの精神を實行した人は日本に於て、否世界に於て多くないと思ふ。貧民救濟に或は勞働運動に携はる彼の精神の根底には常に傳道者の精神がある。彼が數年前按手禮を受けて牧師になると云つた時、私はそれを止めた。すると彼は「自分は種々の事をやるが根本の精神は傳道者である」といつた事を記憶して居る。彼は一枚の葉書にも、イエスの弟子とかイエスにあれとか口癖のやうに書く。彼は今日の社會運動家の如く基督教を邪魔にせぬ。田中氏は其評論中に基督教を拾てよといふ。私は若し賀川氏からイエスを取り去れば彼の今日の運動はないと云ひたい。然し斯く云へばとて彼を完全なる指導者として絶對視するのではない。信ずる所に邁進する態度を實に快く思ひ感心して居るのである。

現代人はポーロやアウガスチン、ルーテル等の經驗した內面的の苦しみをさ程に強く感じて居らぬやうに思ふ。精神生活の分裂をもつと深く悲しみ叫んで神の前に出たいものである。（在文責記者）

斷片

岡崎小文

○

お汝の前に
饑えてやせて起つ力もない人が
うめいて居る時
それでも平氣で
ひもじくもないのに
上等のお菓子が食べられるの

私の手には今カステーラがある
冷たいサイダーのコップがある
西半球の友達が
ロシア、ドイツの友達が
食なくして斃れて居る
重くるしい暗い 塊 が胸にせまる

サイダーを水に
お菓子をパンに變へたなら
あの人達は救へるか知らん
すると困る人が澤山出來る
どうしたら一體よいのだらう
皆で思ひやり合つて
分け合ひあつて足らぬなら
一諸に苦しめばよいのだ

それがお汝に出來るのか
否え一人では出來ません
皆世界の人が一つ心にならぬなら
人類的の愛が物を言はぬなら
そしてそれは一人から始まるのだ

○

愛するものは愛せらるゝ者の
美を見、善を見、眞を見る
そして愛せらるゝ者の光を増す

雲に、草に、木に、星に、人に
同じ現象を私は見る
無限界の彼方から夕の風が吹く
柔い官能の凡てを開いて
自然の前にあらゆる扉を開くと
異象の姿の前に憧の火が燃える

○

自己否定をよしとし
其道を説きつゝ
自己主義の生活をした私には
主の十字架の眞義は隠れて居た
主は王者の身におはしながら
一切を捨てゝ最後の苦しみ迄味はれた
愛すればこそ、萬人を愛すればこそ
其御苦しみをなめ給ふたのだ
凡そ捨て得ない私は
人を愛する愛が足りないのだ

私は自己否定の爲に努力すまい
私が人を眞に愛するならば
神を眞に敬ひ憧るならば
自己否定も、喜捨も、奉仕も
皆自然に湧いて來る

○

私は生きてる
自らも知らぬ寶を秘めて
此生の上に祝福あれ
多くの人に奉仕し得らるゝやう
智識と力と健康とみなぎれ
奉仕なし得ぬ我ならば
何物も入らない
一切が消えて灰となれ

輕井澤の思出

小さな白い名も知らぬ美しい花
そなたの名は聞いたけれども
むづかしい名でもう忘れてしまつたが

姿と香とは今も私の胸に殘つて居る

師の君は一房を私に渡された
優しくも高い香の持主よと
結婚の式場を飾る花
マレーシフラワーとして

薔薇の艶も百合花の優雅もないが
田舍娘の健實さ
奥ゆかしい其香り
くすしき御手の業をほめつゝも
私の心はさすがに震ふた

タゴールは折られし花の幸を歌ふて居れど
私は花を折るのが痛みをおぼえると言へば
花は愛してほしいのだ
手折られてこそ喜ぶ花
物皆は愛してほしいのだ
よし一時の喜びに枯れ果つともと

優しいほゝゑみに輝く師の君

一房の花は師の君の御胸に
一房は私の手にあつて
花物語や鶯の歌の話を
どんな氣持で其日聞いたやら
其日見た小菊やつり鐘草
あざみも百合花も半夢のやう
淡く消えかゝつたが
一房の可愛い花ははつきりと
私の中に私の中にいきて居る

日記の中から

私の靈は眞理を求めてる幾年か求めて來たそして今猶尋ねて居る。私は自分には何も持たない氣がしてたゞ探してゐる。けれども使ふと思ふと不思議に何かゞ出て來る。持つて居ないものが出て來るのは不思議と言はねばならぬ。私の心は今しつとりと惠の露に沾ほふて淚ぐましい嬉しさに充ちてゐる。

私は今から十年ほど前から時々善い事をした後とか或は無心で嬉しさに充ちて居る時に光が放射する。チラトきらめく丈である極く小さな光であるが、それを見た後ではお腹の底から力をおぼえ、ほがらかさをおぼえる。而し見たいと思ふても見られない、偶發的に光を見るのである。今日も見た說明はつかぬ。私は我欲に執着しないつもりだ、それかと言ふて一切を捨てゝモンクのやうな生活をしようとも思はぬ。してもよい、しなくてもよいのだ。

私は美しい感じのよい物を外的に用ふる事が厭はしい事と思はぬ。出來れば文明の與へる最も心地よいものを使つてよい。而も人をおしのけてもそうあり度いとは思はぬ。下等のものでも上等のものでもよい。これでなければならぬなと言ふものは一つもない。たゞ而しどうしてもこれでなければならぬと言ふものが一つある。それは神を仰ぎ見つめてることである。愛の御手に抱擁されてる事である。そしてそれを實生活に表現して行くことである。是丈は是非失つてならぬもの。離れる事の出來ぬもの、かけ替のないものである。然し其他の事はどうなつても大して苦痛もない。私が最も自分に求めてることは愛の人になれとの要求である。是は基督の示して下さつたもので、私が至高のものと認めて居る理想である。理想を持てさらば汝は其理想を實現する人たるべしとの確信をもつて居る。しかし物に觸れる時自己を殺したつもりで殺し得て居らぬ故此事が實現されぬ否おそらく愛の人となれば利己は死ぬるであらふ。十字架上のイエスを見上ながら私自身の愛を高めたいものである。

羅馬書講解

武本喜代藏

（第四章）　信仰と行

（一）アブラハムが信仰に由つて義とされた事、（一―二）細別すれば一―八迄は彼が信仰に由つて義とされた事、九―一二迄は割禮の有無に係らず、只信仰のみに由つて義とされたことを論じてゐる。

「義とされる」とは何を意味するか、人間は皆罪人である。一人の眞の義人はない。若し行、則道德を實行することに依つて義とされるものなら誇るべき所もあらうが、そんな人が何所にあらう、義人アブラハムでさへ、神の前には汚れてゐた、罪人であつた。況んや其他をやだ。ヨシ今日以後完全に道德を實行することが出來るとしても過去の不義不德をどうする、一度汚れても汚れたことに相違ない。一つの罪も永久に消へぬ。其罪と不義の痕跡を持つてゐる以上、人間は絶對に義ではない。神の御前に自己の義を誇ることは出來ぬ。人間と人間の間にてこそ「あれは義人だ」とか、「彼は不義者だ」とか云ふやうなものゝ、其は單に外形的比較上の話で、イエスの外一人の完き義人はないのである。

故に義とせらるゝとは我等の行爲に關係なく、只信仰てふ一條件に依つて神から附與さるゝ義で未だ依然として汚れてゐるのに、上から白い義の衣を着

せられ、未だ全く罪を脱してゐないにも係らず神が信仰のゆへに我等を義人扱ひし、聖き者と見做し給ふと謂ふことに外ならぬ、賜物である。頂戴するのである。從つて誇る所は毫もないのである。

「信仰に由つて」、「アブラハム神を信ず」彼は神に付ての教理や、信條を信じたのではない、直ちに神其物を信じた。生ける神、完き神、道德的、人格的な神御自身を信じた。而して其信仰を義とされたのである。神は何等の條件なく、小供の如く己れを信ずるものを求め玉ふ。惠みの神、愛なる神を信ずること、彼を彼として其儘に受け入るゝこと、愛慕すること、尊信すること、絶對服從すること、それがあらゆる美行美德の源泉であつて、一度信仰に由つて神を受け入るゝや、不義者も義人と成り、罪人も遂に聖徒と化せずにはゐないのである。アブラハムの義とされたのも決して彼の道德や、人格ではない。只其純な、小供らしい、僞りのない信仰に由つてゞあつた。

「割禮の者にあるや」九節より十二節迄はアブラハムが義とせられたのは、彼が割禮を受けし前か、後かと尋ね、勿論其前であつた事を云ひ、割禮の有無に關係なく、只信仰に由つて義とされたのだと結んでゐる。今割禮を洗禮と同一視して考へて見れば一層其意義が明かにされる、則我等が救はれるのは洗禮を受けたからか、洗禮を受くる迄に己に主を信じてゐたからかと、洗禮は勿論大切である。之れは主の命令だから、主を信ずるものが拒む理由はないが併し我等の救はれるのは只洗禮を受けるからではない、信じてバプテスマを受けたから救はれたのである。信仰は前である。洗禮は後である内に救はれた印證として外に洗禮を受くるのである。

割禮とは男子生れて八日目に、石のナイフで、其陽皮を切ることである。初めは種族の符徴として行ふてゐたが、次第に精神化され、神に自己を犧牲として獻ずる儀式と成つて來た、アブラハムは神命として自らも行ひ、其子孫に行はしめた。從つて割禮

の意義はユダヤ人の間に於ては罪を潔むるの意で不割禮とは陽皮則頑冥又は不完全を除かぬ事を意味してゐる。人の義とせらるゝはかゝる重大の儀式にすら依らぬ、要は單純に神を信ずるか、どうかと謂ふことである。割禮あるユダヤ人と、不割禮の異邦人との差別はない、唯信ずるものが義とされ、救はれるとの意である。

(二)世界の世嗣たる約束、(一三―一六)

「汝の國を出で、汝の親族に別れ、汝の父の家に離れて我か汝に示さん其地に至れ、我汝を大なる國民と成し汝を祝み汝の名を大ならしめん、汝は祉福の基となるべし」(創十二〇)とは神か先祖アブラハムに與へられた世界の世嗣なる約束である。之れは先づアブラハムの子孫たるユダヤ人がカナンの地を護更に四隣を征服して大なる國民と成ることを指してゐるけれども、それ丈けではない、メッシャ王國の獲得、則主來り給ふ時、アブラハムの靈的子孫、其信仰に習ふ、眞のクリスチャンたるものが改造された世界の後繼者と成とり、其幸福を嗣ぐことを意味してゐる。山上説教の中にも主は「柔和なる者は福なり其人は地を嗣ぐことを行べければ也」と云はれた。地を嗣ぐとは單にカナン征服のことではなく、更に輝ける、來らんとするメッシャ王國、後繼者たることを意味してゐる。

此約束は律法を行ふ者に成就するか、又は信仰に由つて義とされた者に成就されるかと質問し、律法は我等に罪を示し、神怒を來らす者であり、神の法庭に引出されては唯一人こんな光榮の約束に預り得るものはない。異邦人は勿論、神の撰民たるユダヤ人でも律法の前には罪人である。從つて世界の世嗣たるに足るべき資格はない、ユダヤ人は我等はアブラハムの子孫であるから、當然世界の世嗣たるべきものだと妄信してゐた。彼等に取つては血統が信仰よりも大切と思はれてゐた。が併しパウロは之を粉碎して了つた。血統によらず、律法に由らず、只信仰に依つてのみ義とせられ、榮化され、來るべき

新世界の世嗣とされると云ふのである。

(三)イサクの誕生は信仰の結果たる事

(一七—二三)

アブラハムが世界の世嗣たるの約束を受けたのは彼が已に年老ひ、而かも一人の子供もなかつた時のことである。夫婦とも已に百歳に近くして、正統の子を得ることは絶對に望みのなかつた時のことである。然るに彼は神より此驚くべき約束を受けた。則汝の子孫は空の星の如く、濱の砂の如く成つて世界の世嗣、多くの國民の父と成るのであらうと。サラが笑ふたも無理ではない、常識や、理智で信ぜらるべき事ではないからである。

此にアブラハムの信仰を要した。彼は只神を信じた。其神は「死せし者を生し、無ものを有し如く稱ふる」神であつた。常識では如何にも馬鹿らしく理性から云つても容易に信ぜられないやうな事ではあつたけれども唯忠實に神を信じ、ヨシ天地は崩れても、神の約束に違ひはないと確信したのである。彼は此信仰に由つて義とせられた。神に受入れられた神は彼の罪や缺點を許し、只此不邪氣の信仰のゆへに彼を義人とし玉ふたのである。

(四)今日のクリスチャンへの適用、(二三—二五)

アブラハムが信仰に由つて義とせられたやうに、今日の我等も只信仰に由つてのみ救はれる。併し新約信徒の信仰は舊約時代の幼稚な信仰とは異り、頗ぶる複雑である則十字架と、甦りの事實に至つてゐる。イエスは我等が罪の爲めに死にわたされた。彼の死に依つて信ずる者の罪は盡く赦され、且潔められた。贖罪は十字架に依つて完成されたのである。

併しながら彼が若し甦らなかつたならば彼の人格も疑はしく、其十字架が果して人類の贖であつたかどうか分らぬ。咀ひの木に懸つたのは、或は彼が犯した自身の罪の結果であつたかも知れぬ。從つて我等が彼への信仰は動搖せざるを得ないのである。所が神は彼を甦らしめた、死に打勝しめ玉ふた。之れに依つて我等の疑惑は晴れ、彼が誠に來るべきメツシヤで神の子であることを確信するやうに成つたのである。則彼は「われ等が義とせられん爲に甦らされたのである。

法律講話

婦人と法律

岡崎應介

第七、財産上の夫婦關係

個人の利益と團體の利益とは必しも一致しない、夫婦各自の利益と其共同生活關係とについても亦同様であります。故に法律は夫婦の離婚を認め――是基督教々義と相容れず私達の理想に反しますが――又夫婦の財産關係についても一定の規律を設け、出來る丈け其調和を求めたのであります。

元來婚姻生活は其基調を心的に置き、財産關係については比較的冷淡であつた。冷淡であり又そうありたい。それ故昔は特に妻の財産を認めないで、婚姻により夫は妻の所有する財産上の一切の權利をも取得し、持參金や持參田畑なども夫の所有となつたのであります。英國のコンモンローでも、妻の財産及び所得は當然夫に歸屬するものとしましたが、それでは頗る婦人に對する財産上の保護を缺ぐので近來妻の特有財産法を作るに至つた。各國法制皆或程度の妻の特有財産權を認めて居ます。是婦人の權利擴張の一つであります。我國法制亦然り、即婚姻の際有效な財産契約をしなかつた場合には、妻又は入夫が婚姻前より有した財産は勿論婚姻中自分名儀で買つたり稼だりして得た財産は其者の特有財産とし古の如く結婚によつて其財産關係に變更を生じないものとした。(民八〇七)又夫婦の何れに屬するか明ならざる財産は、夫又は女戸主の財産として、夫婦の共有としない。是我國の家族制度上夫權及び戸主權の尊重を理由としてかく規定したのであらう。併しながら私は此規定に對しては不平があります。何故夫婦の共有財産にしなかつたのか? その方が寧ろ夫婦同體と云ふ理想に近くはないか? しかも共有主義を否認すべき特別の理由は見出されない様に考へるのであります。尤も、

夫は婚姻より生ずる一切の費用を負擔し、妻は戸

主たるときに限り此費用を負擔し（七九八）一家の生計子弟敎育の義務は夫又は女戸主にありとしたので、其均衡上右の樣な規定を設けたと說明せられます。併し夫又は女戸主は配偶者の基本財産についてこそ濫にどうすることも能きないけれども。其自然の用法に從つて之を使用し得るのみならず、其果實例へば家賃、小作料、利子（恩給の如き終身定期金は含みません）などは之を自己の所得とする權利を有つてる（七九九）唯其使用收益權については、若し配偶者に負債があるときは、先づ其財産から生ずる果實で其負債の利息を支拂ひ殘額を所得する外、其財産の維持等の必要費の負擔及び原狀に回復して返還する義務を負ふ制限あるにすぎません。（七九九及八〇〇）勿論夫は其所得した利益を獨り生計の資に充つるのみならず勝手に消費して差支ないのであります。然るに夫婦相互扶助の義務は依然として存在し、加之其家族に對しても亦相當の扶助義務を免れないのであります。（七九八）故に若し夫が懶で貧した時でも其親子兄妹に對しても妻は其需要に應じ其身分及び資力に相當する扶養費を負擔し、家族の敎育もしなければならぬのであります。して見ると矢張り前述の樣な曖昧な財産は夫婦の共有とした方が何だか衡平で時勢に適してる樣に考へられるのであります。佛蘭西や和蘭では、夫婦の契約によつて固より法定財産制に變更を加へることを許しますが、かゝる契約をしなかつた場合には財産は總て夫婦の共有とするのであります。勿論これは原則でありますので、夫婦が自分名義で得た財産は其ものの特有財産とすることも出來るのであります。スペインでは婚姻後は、夫婦各自の所得までも共有としました。

深い議論は暫く措き上の如く財産所有については別産主義を採りましたが、其管理については原則として、夫は妻の財産を管理し、入夫の場合尙且然りで、唯夫が管理不能の場合にのみ妻は自己の財産を管理するにすぎぬ。（八〇一）而して夫の管理權については、左の場合には妻の承諾を得る制限があります。

(1)夫が妻の爲に借財をする場合、(2)妻の財產を他人に讓り渡す場合、(3)妻の財產を擔保に入れる場合、(4)土地建物其他動產を他人に貸す場合に法律で定めた期間（建物は三年、動產は六ケ月、土地は五年）を超えて賃貸する場合（八〇二）此等の場合若夫が獨斷行爲をしたならば、妻は之を追認する事も、否認する事も出來ます。否認したらば勿論夫の行爲は效力を生じないが、其否認は夫の相手方に對してしなければ相手方に對抗する事が能きぬ。尙又夫は一單許可を與へた妻の營業に關しても、其許可を取消制限する事は能きるが之について管理權がありません。日常の家事については妻は夫の代理人と看做されるのである。唯夫は妻の代理權の全部又は一部を否認するを得ます。しかし之を以て何も知らぬ善意の第三者には對抗し得ない（八〇四）而して夫が妻の代理につき制限を加へ得るものとした代りに、夫が妻の財產を管理するに當り、必要ありと認たときは裁判所は妻の請求に因り夫に相當の擔保を供せしめる樣にしました（八〇三）が、夫の妻に對する制限は別段の手續を要しないに拘らず、妻の擔保請求については裁判所の許可を必要とするのである。其所に不衡平の感あるを免れないではありませんか？

以上が我國の法定財產上の夫婦關係でありますが要するに我法定財產制は、夫婦別產主義を採り且つ共同管理制を採用しだので自ら複雜な法律關係の發生を免れませんが、十九世紀末の個人主義文明と、我國古來の家族制度との調和を計らんが爲に如斯規定を見るに至つたのでありまして、夫權戶主權を偏重した恨少からず、固よりデモクラチックな基督敎徒に對しては不滿足の點が數々あります。

然らば私達基督敎徒は、幸現行法が契約自由の原則に從つて如上の法定制度と異なる契約を許して居ますので、之に從つて理想の幾分でもの實現を期すべきだと信じます。唯注意を要するのは、其契約が直に現社會組織と相容れない樣なものは勿論、現行法規に違反するものでも公の秩序善良の風俗に反するものとして無效である。加之其契約は必ず婚姻の

屆出前になし、之を登記しなければ、之を以て夫婦の相續人や受遺者など抱括的な承繼人及其他の第三者に對抗することを得ない。(七九四)而して此契約は結婚の屆出後は、もはや變更することが能きぬ。是然らずんば自由意思の確定力なく、且第三者に迷惑を及ぼすことあるが故に、此制限を加へたのでありますとは云へ夫婦の一方が、他の一方の財産を管理するに當り、其方法宜しきを得ず、爲に其財産を危くしたときは、裁判所を煩はして自ら其管理をすることを得、又共有財産については同じく裁判によつて之を分割することが能きます。併し此管理の變更や財産の分割は登記しなければ、其承繼人や其他の人々に對抗して自分の權利を主張することが能きません

茲で私達は少くとも二つの不都合を感ぜざるを得ない。先づ特別な財産契約をして然る後結婚することは實際頗る稀で、司法省の統計年鑑によるも、大正三年十八件、四年十六件、六年十九件、八年六件と云つた風に毎年多くも十數件を算ふるにすぎない實狀であり、婚姻當時は財産に重きを置かないが其後此點に重きを置かざるを得ない境遇になることがある。然るに我國では婚姻後は既に此契約を結ぶことを得ない。これは聊か婦人の保護に物足りぬ心地がします。宜しく瑞西國民法位の改正が欲しい。瑞西民法一七九條では、婚姻後も夫婦財産に關し特別契約を許すが、唯之が爲に他人に對する其財産の從來の責任を變ずるを得ないものとしてあります。他の一つは夫婦間の爭を、裁判所に持出すことは穩健を尊ぶ婦人に對しては、容易でないのみならず、家庭の内幕を逐一公衆の前に洒すのは、餘り淳風美俗と云ひ得られません。何とか甘く簡單にしかも公平に片付ける方法はないでせうか?

婚姻生活の理想を心的に求め、夫婦同體主義を信條とする基督徒者に對し、其物的方面の觀察を試みたのは、何だか叛逆的淋しさを感じ、却つて美俗に一抹の暗影を投ぜんとするものであり、妙にうしろめたいのであります。けれども一面寫眞媒介の上簡單な見合で萬事を決する現在の我婚姻慣習を考へるとき、此二次的な物的方面の現法制の大略を述べ敢へて諸姉に理想的改善方法の考察を煩さんとしたのは、それは目下問題とされてる「淳風美俗」の見地からする我法制の改正運動に諸姉の注目監視を促したいからであります。



母（二）

村岡花子

「母さんは今夜は大變にくたびれたやうなお顔してゐらしつてよ。姉さん達に跡片附はして頂いて、母さんが其の代りに音樂會にいらつしやいよ。其の方がきつと、身體に可いわ。」

末娘は母親の膝にまたがつて、兩足をぶら〳〵させながら、勞れ果てたやうな母の青ざめた顔を撫でゝ、こんなませた口を利いた。

「それぢや合唱は如何なるの？　母さんが一人で、高壇に上つて、相手なしの合唱をしたら、それこそ大評判だらうね。其の上に、この着物だらう？　皆さんがびつくりして仕舞つて、手も拍けないかも知れないよ。いゝえ、いゝえ、ベーブちやんや母さんは出られないよ、澤山に御用があるからね。若しかしたら、來年の冬は行かれるかも知れないけれどね。」

「アラ、母さん、ちよつと御覽なさい。私の足、こんなに長くなつてよ。もう少うし立つと、私、母さんに抱つこなんか出來なくなるわ。然うしたら、もう母さんにはベービーが無くなつて仕舞ふのね。」

「ベーブちやん、ベーブちやん、そんな話はもうお止め。」アームストロング夫人は堪らないやうに、娘を抱きしめて叫んだ。「いつまでも、母さんのベビーで居てお呉れ。母さんはベビーちやんが無かつたら淋しくて居られないよ。」

こんな會話が交されて居る所へ、息子達が、手に一杯毛布をかゝへて下りて來た。其處へ父親は眞白な牛乳を二つの桶に滿々と搾つて來た。ラウラとベルサが溫い毛皮にくるまつて現れ…。

ベルサは母の膝に抱かれた妹をチラとにらめて、

「母さんは何時まで、其の子を然うやつて甘やかすお積りなの？　大きな形をして、未だ椅子に坐らないなんて、馬鹿げてますよ。」

やがて、すつかり仕度の整つた橇に乘り込んで、子供達は元氣に出掛けて行つた。ベーブは父親の足の所に坐り込んで居た。

かなり走つてから、ジャックが口を開いた。

「母さんに行つてまゐります。を言つて來たかい？」

誰も答をする者はなかつた。「實際、皆は酷いなあ。跡片附は何も彼も母さん一人の手に殘して來て、夫で、出がけの挨拶一言滿足に言つて來ないなんて事があるもんか。」

ジャックは腹が立つたやうな樣子で、馬に鞭を當てた。「偉さうな事を言ふのね。もつと早く言つて呉れりや可いのに、今からぢや後へは戻れないから、仕樣がないわ。」ベルサも負けずに喰つてかゝつた。

「だけど、母さんはそんな小さな事を氣に懸けなさりやしなくつてよ。それに、外へ出る事は大してお好きぢやなしさ。」

あゝ、何て奇麗な晩なんでせうね！

まあ、あの星の光る事！　ほんとに、此冬は面白かつたわね。評論會だの、音樂會だのつて、全くひつきりなしだつたわ。これぢや田舍の冬も少つともつまらなかないわね。ラウラちやん、あなた、然う思はないこと？」

ラウラは何か返事をしたけれど、橇の鈴に紛れて分らなかつた。霜夜の道をリン、リン、リンと走つて行く橇の音、全くそれには一種の美しい樂音的の響があつた。其の鈴の音の間を縫つて、若人達の笑聲が聞えて行く。斯うして、車輪は賑やかに冷い氣の中を走つた。

彼等が青春の歡喜に躍る胸を抱いて、心ゆくばかりに、此冬の夜の一刻一刻を樂しんで居る其時に、一人淋しく取殘された母親は、どうして居たらう。彼等の一人でもが唯一言の「行つて參ります」といふ挨拶をさへ與へなかつた母親、然し、子供達は皆、母

を愛して居た。唯僅かな同情がない爲めに、ホンの少しの注意が足ないばつかりに、度々彼等の態度は冷い、愛情の乏しいものに見えたけれども、然し、此の子供達の心の底にはいつも、母を慕ひいつくしむ思は流れて居るのだつた。

長い年月の間、ほんたうに十年、二十年といふものを唯の一日のやうに、いつの日も變らず、家庭の凡ての責任を其のかよわい身一つに負つて、一家を平和に、幸福に作り成して來た其の婦人は、今夜ばかりは、不思議に、身のまはりに押し寄せて來るやうな、寂しさやるせなさの思ひに堪へられないで、大きな搖椅子に倚つた儘、胸も千切れよとばかりに泣きくづれるのであつた。

「噫、妾の子供達！　子供達！　妾は……妾は、お前達が何時迄も、子供であつて欲しい。成人になつて貰ひ度くない――何時迄も、何時迄も、妾のベビーで居て欲しい。あの時分は、ほんとに、どんなに樂しかつたゞらう。お前方にとつて、マヽ程、好い人は世の中には無かつたんだもの。夜は夜、晝は晝で隨分手は掛つたけれど、妾は、噫、妾はどんな時でも、お前方を煩いと思つた事はなかつた。どれ程、世話が燒けようとも、妾には、そんな事は何の苦にもならなかつた。今だつて、妾は決して苦勞を厭ふのぢやない、厭ふのぢやないけれど、どうして、こんなに迄も、身體が勞れるのだらう。僅か一時間、妾の傍を離れるのでも、「サヨナラ」のキッスばかりに、何度行つたり來たりした事だつたらう。そして家へ馳け込むのと一諸に、「母さんは何處？」と言つて、妾の姿を探して呉れたあの時分が、妾は戀しくて、戀しくてたまらない。噫、妾のベビー、妾は昔の儘の子供達をもう一度自分の周圍に寄せて見度い！」

家の中には誰一人、遠慮すべき人も居なかつたので、アームストロング夫人は、思の儘に涙をしぼつた。其の中に、ノソリ、ノソリと猫が膝の上に上つて來て、不思議がるやうに、鳴いて見せた。すると搖椅子に歸つて、例の通りに、息子の着物のつく

ろいに取かゝつた。

音樂會は大成功であつた。ラウラとベルサの合唱は例に依つて大喝采、アームストロング氏は其夜の司會者だつたが、これも申分のない司會振りであつた。「ベーブちやん」の暗誦では拍手喝采で會場は割れるやうであつた。

家では母親が、仕事は出したものゝ、どうしてか今夜は奇妙に針が進まないので困つて居た。針持つ手許は鈍るばかりで、唯何といふ事もなく、ぼんやりとして來るのだつた。そして、もう、何がどうなつても構はないといふ樣な氣持が起つて來る。どうせもう後も僅なのだからといふ樣な事さへ考られる。とう／＼彼女は椅子に頭を凭せて眠つて仕舞つた。縫さしの仕事は、何時か其手からすべり落て居た。

リン、リン、リンと近附いて來る鈴の音、若々しい笑の聲、急に霜夜の靜寂は破られた。犬は耳を立てた丈けで、何時もの樣に飛出さうとはしないで、今夜は忠實に、主人の眠を守つて居た。

毛布を手一杯にかゝへて入つて來た一人が、いきなり、「母さん、未だ起きてたんですか。」と言ふ後から、ラウラが、「ほんとに、母さん、あたし達はもう赤坊ぢやないんですから、出た度に、斯うして待つて居て下さらないたつて大丈夫よ。馬鹿々々しい事ですわ。早くお寢みになつたら可いのよ。」

先に入つて來た方の息子の顏が急に變つた。

「ヤッ、母さん、どうしたんです？父さんを、早く父さんを呼んで――、大變だ、大變だ。姉さん、早く、早く、父さんを呼ばないんですか。母さん、母さん。しつかり、しつかりして下さい。僕ですよ。ジャックですよ。母さん――。」

然し、今夜ばかりは、優しい母親の眼は、子供達がどれ程叫んでも開かなかつた。どんなに勞れて居ても、彼等の爲めなら、勞働を拒まなかつた其の手も、今夜丈けは動かうとはしなかつた。片方の手は犬の頭に載せた儘、片手では、未だつくろひ物をおさへて居つた。猫は不機嫌な顏をして、皆を眺めて居た。

彼等の母は永遠の眠についたのであつた。

（そはり）

松岡氏講話摘要

松岡氏は勞働管見と言ふ題で修養會の時お話されたが現在の勞働者がどんなに激務にあたりつゝあるか、しかも其酬らるゝ處の如何に不當にも少なく僅に生命を維持するにとゞまるか、殊に二百四五十萬の勞働者の中六割を占むる婦人が粗食と、非衛生的生活の爲に如何に多く病魔におそはるか、又ある者は不倫に墮入つゝあるかの慘狀を述べられた。そして氏は言はるゝに人間が生甲斐のある生活をする爲には八時間働き、八時間勉强し八時間休む必要がある、是はアメリカの八時間制度から割出したのでなく、健康な人間生活をする爲には八時間制度でなければならぬ事を考へるに到つた。そして一週間の內一日即日曜日を守ると言ふ事は生活の上にも仕事の能率の上にも大切である。

自由平等の上に立つ人間觀がない爲に僞善が行はれ、不當が行はれてるが企業家も、重役も、事務員も、敎師も皆平等な勞働者である。生產物は公平に分配され、產業は正しく管理支配される事によつて新しい世界に進む事が出來るのである。

或る者は溫情主義を主張す。溫情主義は矛盾して居る生活に必要な時と、金を與へないで琴を敎へるとか生花をさせると言ふ樣な事が何になるであらふ一方に人類愛を主張する者がある而し人間の本性を考へる時そうは考へられない。今の狀態を立なほすには勞働者の團結する事である。現在の勞働組合は欠點がある途中にあるものはいつもみにくゝ愚かに見える是を責めたり非難してはならぬ。日本の社會を立てなほす爲には男子のみでは出來ぬ。婦人も一致團結してほしい同職の關係上凡ての勞働者は同盟しなければならぬ。

民衆をクリスト敎化せよ、同時にクリスト敎を民衆化せよ。男女の勞働者は互に一致して社會惡の根元を撲滅し天國を來らせん事を切望するとの意を述べられた。

修養會協議會報告

理想的信徒學生

協議會委員

「典型」そう云ふ言葉を用ひるのは、餘りに幼稚でせうか、併しながら、私等この修養會員が一生懸命で作り上げた、この理想的信徒學生、と云ふものを一寸こゝに書きつらねてみました。

「理想的信徒學生」恐ろしいしかつめらしい、肩書ですけれど、かう書き並べてみますと、實行、今すぐからでも手がつけられさうな事ばかりです。

先づ第一に、憧憬のある人で無ければならない即ち、ビジョンを常にみつめてそれを追ひつゝ、あえぎ求める人、それには日常の行爲に、一あし一足を踏みしめて行く、眞實さが無ければならぬ。求めて求めてあえぎ、たとへそのすがたをみ失はんとしても尚、あえぎ求める、ほんとうの眞實さがほしい。

大勇氣がほしい。又、そこに行く人の持たねばならぬ。極端な謙遜、何物の中にも「師よ」とひざまづき得る謙遜が無ければならぬ。まつすぐに、自分の心の辿りをそのまゝにあらはし得る正直さがなければならぬ。人の弱さに泣き得る泪が無ければならぬ。よろこびにあふれつゝ、その道の險しさを攀ぢ登るゆとりを欲しい。併しながら、それは飽くまでも自分自身のものでなければならぬ。しひられたからとかでもまねして等と云ふ態度は取りたく無い。自然に、もつとも自然に流れるまゝに流す、その所謂、個性の閃きを見たい。がこう云つたとて、勿論私達はこれを單なる智識の上から、思想の上から論じ、心の中にのみ持つのでは何の役にも立たぬ。

私達は飽くまでも、これを實行にあらはさんとする努力を見るのでなければ今まで上げた事項はすべて無駄であると云はなければならぬ。とは云へ、私達は屢々實行と憧憬の餘に遠く離れて居る事に幾たびか、くづ折れて或はこれを、すつかり放擲せんか

それまでゝなくとも、自分には到底なし能はざるものと、長大息を洩す事もあるであらう。けれども私等は最後まで、くつおれてはならぬ。長大息は洩らすも決してわるい事では無い。「あまたたびの歎息をもて眞理を求めよ」今あげて眞正の彼こそはと、思はるゝクリスチャンであると思はる、綱島氏は教へて居られるたゞ求めるこゝろは一刻もはなしては無らない私達の完成は永遠を約せられてゐるではございませんか。私達はこの信仰によつて大勇猛心を奮ひ起しつゝ、まつしぐらに、憧憬の的をめがけて駈けつけたい。

若しその道に哀れな足の弱い人があつたら、手をとりあつて慰めつゝいたはりつゝ行かうどんな人だつて見棄てゝはならない、併しながら、先に行く人をよびとめて、足を揃へて、と聲をかける必要は、みぢんも無い。いえ寧ろ私達はその人達のためにほんとうに喜びたい、大きな心をもつて双手を擧げて祝ひたい人のためでなく、ほんとうの自分のためによろこばなければならない事ではあるまいか。

もう一度、私達はこの言葉をもつと簡單に、ちゞめて、熟語の形にずらりと並べるならば先づ理想の星、憧憬の的をはつきり置いて、

そこに忠實、眞實、勇氣、謙遜、正直、同情、感謝、個性、自然、實行、信仰、指導、嫉まず羨まず寛大な心、とでもしませうか。

私達は又これをあらはすに、又もつとも適切にもつとも似合はしく出さなければならない責任があると思はれる。

日常の會話、殊にその話題、言葉付き、その「すがた」もつと詳しく細かに云ふならば、着物の着方から、模樣の撰び方、色の配合みされいな、たしなみ、髪の結ひ振り、はては人に接する態度、すべてが、自然に、上品にしかも、その人らしくあつてほしいものである。　以上。

信徒學生と教會

協議會委員

一、**教會とは何ぞや。** 教會とは心を同じうし信仰を一つにする者が相集つて神を禮拜し神の國の建設を畫てる所である。

二、**現今の教會の長短所。** 現在の教會の餘りに事業的なる事例へば時々バザー、音樂其他の切符賣つけ等、説教が時に世俗的にして講演會と同じ感じを與へる事、日常の精神生活を高める爲に行くも其暗示を得難き事、教會の行政が長老役員のみの手にあつて若き者が度外視せらるゝ事、新來の人に冷淡たること、禮拜の氣分に欠けしんみりとした氣持になり得ざる事、以上列擧したる所は諸教會により異るも重なる短所で、信仰を同じうする眞の友を見出し得るは其長所と見てよからう。

三、**理想的教會**　女子靑年會ほど社會事業に携る必要なきも靈性の修養をなし眞の社會奉仕を爲す人物を造ると共に積極的にキリスト教の團體とし社會事業に出來る丈の手をつくる事、禮拜出席の時には衣服に注意をなし華美の服裝を用ひざる事、祈禱中出入せぬ事、兒子小人はなるべく伴れ入らぬ事、クワイヤーの必要を認むるが此爲には人撰に注意し心の一致をもて救の爲に歌ふ事而してクワイヤーに出る前に祈の順備を必要と感ず。説教は短かく卅分以内が理想的である。献金中奏樂をする事、讃美歌は音譜に注意し敬虔な心で歌ひ度い事。

四、信徒學生は在學地の教會に轉會又は客分として入會する事。

五、信徒學生はコーラス、日曜學校、奏樂などを助け得、喜んで助け得らる物を一つ全心を盡して爲す事勿論諸種の助を爲すは自由なるも學生の本務を忘れぬ事。

六、**婦人傳道學校の可否。** 必要と認む。現在の婦人傳道者の智識、常識、生活の程度、世の中の人の彼等に對する考へ底き事は學生が傳道界に志す妨とな

る。其矯正の法は眞に使命に感じた智識人格の備ったる人が更に數年の神學研究を積み、斯界に入る時自然婦人傳道師の置位を高め得。

七、女子青年會は敎會に何の奉仕を爲すべきか、傳道集會、其他の集會に於ての求道者及決心者を、適當の敎會に紹介する事、敎會の諸集會に會館をお貸しする事。

八、學生義勇團の創立は早計なりや、時を待つ時はいつ迄たつも起ぬ故個々の問題なるも今日是が創立を早計ならずと信ず。

京都基督敎女子青年會報告

京の六月はまた一しほ美しいものでございます新緑の中正神を讃美し聖き物語をする時ほつと深しいものはございません、一夕三角クラブ員數人と京の名所清水寺の奥の山に參りました、高き丘のより市中を見下し木葉の間より夕やけを見乍ら語りうたひ何とも云はれぬ集りでございました。數日前正方形クラブ(府立病院看護婦)の親睦會を催しました、此頃の梅雨のむしあつき中多數の患者に日夜接して居らねばならぬ姉妹等にはたしかに、打ちくつろいだ愉快な會が度々催されねばならぬと感じました。七月一日のスタントデーは學生の方のクラブの催でなかなか振つた餘興が數番ありました。殊に頭のグラグラや帽子の落ちかゝつた魔法醫者に最上出來の評がありました、六月二十九日は久しぶりにて西野貞子先生に御出を願ひ午後と夜と二回力ある御講演がありました、雨中特にむしあつき日でありましたが豫想以上に多數集り晩は滿員でございました、當會より修養會とはどんなものか少しも御在じない四人の若い姉妹が出席いたしました、願はくば出席さるゝ一同の若き姉妹方上に神の御働の特に加はるやう祈つてやみません。

捜眞女學校女子青年會報告

每月諸々の青年會の御報告を拜見しては勵まされて少しでも多く働きたいと存じて居りました。けれども自分の會のことはついぞ御報告を致しませんでした。私共の學校には共練會と云ふものがありまして、それが又文藝部修養部體育部と分れて、學校全部が全力を注いで居ります。而も修養部は宗教的な修養の方面を受持つて居りますし、夫れ〴〵の部長も生徒がつとめて居ります等種々の點に於て青年會と衝突致しますので私共も全力を盡して居る積りですけれど、それはほんとうに僅かなものとなつて居ります、働きと致しましては、寄宿舍の土曜日の晩の集會（土曜の晩には日曜學校の豫習を致します）學校では木曜日の七時間目に木曜會といふのをいたします。この木曜日の時間を學期の初めに共練會の三部と青年會で戴く時間を定めますので、各一學期に四五回位しか戴けません、その青年會で戴いた時間の中から一時間を講演會として、外の先生方に御話を御願ひするのです、講演會でないときには、級々に分れて、役員方が受持つて、心持のよい集會を致します。そうした時は大抵先生方は教員會ですから集會には御出下さいません。六月八日には橫濱市部の橫澤先生から「深淵にある心」と云ふ大變好いお話しをして戴きました。そして七月九日の日曜日には最後の集會として、キャンデル　ソウルビスを致しました。私達の學校ではこれが最初の催しで、先生方を初めとして多くの人々は非常な印象をお受けになつたさうです。特別の働きとして、學校のある日に晝のお辨當としてパンを賣つて居ります、日々少しづゝ働く丈で莫大な利益を得ることが出來るのです、それは役員や委員達が働いて居ります。

會員の方には自由な爲に、全校生徒三百名程の中わづかに百名足らずです、そしてその方々は、會員としての特別の働きをお願してないものですから何かしたいと云つて居ります、來期から少し考へて會

員丈に何か特別にして戴かうと思つて居ります。今年度の役員及び委員を御紹介いたします。

委　員

會長　高田やす子
副會長　井上君江
會計　丸山幸
同　上田ひで
書記　内田こと

役　員

共勵部長　島村やま
慈善部長　山本忠子
傳導部長　土屋あや子
誘導部長　山鹿みち

宮城女學校女子青年會報告

青年會の皆様に青年會に携つて働いて戴きたい、そして青年會一團體としても、又その人青年會員一個人としても大正十一年度こそは神の前に、又人の前に尊い成長をしたいといふ希望から私共青年會の委員組織を少し變へました。と申しますのは大きい委員を八人に減じ、その下にアセスタントを五六人必要に應じてそれより多く又は少く置き皆様よく責任をもつて働いて居られます。と同時に全部合せては三十九人ありますが委員は各部の働き〳〵をも互に助け合ひ進みつゝあります。今學期の始に青年會員の上級生各々が各新入生のビィグシスターとなり一週間御世話しました。今學年の標語を「なんぢら彼此の勞を任へ斯くしてキリストの律法を全すべし」と定めその成就に努めて居ります。第二、第四月曜を定期委員會日とし、相談決定いたします。特別の時は臨時委員會をも開きます。四月には新入生の歡迎會をし、後ち不束ながら委員が青年會の何たるかをお話し會に入つて戴きました。新入生の内大ていい會員になられ、只今では會員總數は二百七十六になつて居ります。いろ〳〵のことでお金を遣ひましたので遠足を利用して菓子を造りその利益を以て會

計を助けました。さうこうして居ります内に鈴蘭の時にもなりましたので委員會員大勢山にゆき鈴蘭の外いろ〳〵の花をも取つて來ました學校の病人、他の病院へ持つてゆき幾分なりとも慰を與へることが出來ました。去年の十月から花を見たことがない等申す人もあり生き返へつた程喜んで居られました。前から望んで居りました會即ち貯金局の女事務員を御招びして音樂を聞せ樂しいパテーを持つことが出來ました。はじめての試でした事とて心配でしたが案外意義のあるものでございました。生れてはじめてこんな樂しい會を持つたなど申されそれは〳〵無邪氣に遊んでゆかれました。此やうに外面に働くことによつても皆が尊い或物を握り得て感謝して居ります。その後ペンテコステまでの傳道をと握原先生を學校に御招びし、有益な御講話がありました。最近河井先生の御來仙をうけ、色々力ある御勵ましをうけ委員會員青年會に働く事の出來ることをより深く幸な事と確信いたしました。縣立女學校を御招待し先生の北京大會についての御講演もございました。皆樣得る所多かりとよろこんで居ります、前から青年會の事務所を欲しいと思つて居りましたがこの度その資金の一端と思ひ會員全部に十錢づゝ渡し長い休夏の間それを働かしてその働かした金でテーブル、ベンチ、ブルーのカーテン、書籍などを備へたいつもりです、青年會の凡てのものをそこに置き委員會その他の會をそこで持つことの出來ますために。今學期の最後の日各々青年會の働をよく知るために（各部の）又一學期の働きの終結をするために顧問先生と委員三十九名と委員會をいたし今學期の各部の働きの報告がありました。又今學期出來なかつた事來學期したい事夏休考ふべき事など色々相談の後會長の一學期の働きの全搬に渡る話、顧問先生の御忠告あり、終りに會長の祈の下に散會いたしました。

（以上三つの報告は八月號に掲載なし得ざりしものです）

誌友の欄

投稿歡迎　締切毎月十五日　編輯部宛

○

横濱　小出むら子

私は始めて修養會に出席させて頂く事が出來たので御座います。私は今までに味つた事のない喜びと滿足とをもつて山を下る事が出來ました。今までの私の生活は、非常になまぬるいもので御座いませんでした。故に自分の望みを反對なる父の前に言ひ表す事は出來ませんでした。けれどもあの修養會によりて私は一變して強くなる事が出來ました。先生方を始め二百人餘の方々の前で決心をした事や父受洗を望んで居る事をすつかり話す事が出來ました。而し父は之に同意してくれませんでしたので一時失望を致しました。けれども後に必ず折の與へられる事を確信致しました時に大いなる喜びが御座いました。唯神によりすがり。祈を常にして居ます。又私は心から出た熱心な祈を味ふ事が出來るやうになりましてほんとうに嬉しく思つて居ます。私はまだ〳〵足らない信仰のうすい者で御座います何卒弱い者の爲にお祈り下さるやうお助け下さいますやうお願ひします。

○

小泉とみ子

私は生れてはじめてあんな美しい清い場所に行かれました事をどんなに〳〵感謝して居るかわかりません。赤い富士の入日、大きな深いみどりの色の湖水にうつた宵の星、あゝした美しい大きな自然それよりもつと〳〵皆樣の御心の中にあつたあの光、あのなつかしい思出を私はどうしても忘れる事が出來ません。小さな私の短い人生を有りし日の最も輝かしい嬉しい、なつかしい記憶は御殿場の修養會で與へられた賜で御座いました。私はミツションスクールに居ます。色々の周圍の事情から近頃基督教に反感を持つて居ました。協議會に出席した其の瞬間私は、自分が信者であつた事を見出しました。私は非常に卑怯であつた事がわかりました。此頃は毎日曜近所の教會に出て居ます。

○

福井澄子

待に待つたあの修養會もとう〳〵終つて了ひました。私達があのやうな修養會を持つた事はほんとうに、先生方の御力なしではないと感じまして皆感謝申し上げて居ります。あの美しい大自然の地に今一度歸られたならといつも〳〵思ひつゞけて居ます。

こうして東京へ歸つて始めて考へなほして見れば何故もつと〳〵澤山のものを得てこなかつたのかと悲しくなります。今何から手につけてよいのが分りません、けれども努めて多くの人の爲に奉仕せねばならないのを強く感じて居ります。

あの最後の清い夕べがくりかへし〳〵頭に返つてまゐります。もう一度あゝして暮し度う御座います。でも來年はきつと〳〵よりよいものを作り出し度う御座います。今から夢中で其お金の爲につとめはじめて居ります。

東洋英和女學校代員に代つて皆のもの〻心からのお禮を申し上げます。

谷町傳道協會女子青年會

谷町傳道敎會は近頃女子青年の信者求道者の數を增し候に付去る四月十六日のイースターを紀念に、女子青年會を組織致し五月には相談會を兼ね第一回自修的講習會を開き外村先生よりお話を承り六月には傳道的講演會を開き、川戸環先生をお願ひして御講演を願ひましたが享樂と使命と言ふ題のもとに趣味深き極めて有益なるお話を承りました。來會者は御婦人斗り三十三人お集り下さいまして生れた斗りの青年會の働きとしては意外の成功にて深く感謝致しました。今後も自修的の會と傳道的の會とを交々開いて出來る丈け發展致し度いと祈り求めて居ります。

○

私は友の爲に學校の爲にこれからエス樣が私共の爲にして下すつた樣に自分の出來るだけを盡して働きたいと思ひます。神の福音を傳へる爲にエスの御苦しみを知らす爲に。

○

自分の罪の深い事を深く悔ひ改め、神と言ふあゝ計り知られぬ力の御前に膝まづき出來得る限り献身的に世に貢献し度いと思つて居ます。

○

確に自分の信仰は空虚のものでした。今こそその自覺を强くされました。先づ自分をキリストと共に十字架につけるように祈り且つ求めます。

○

只今迄の私の事を考へますと悲しやら何とも言ひ樣の無い態度で居ました。ほんとうに只名ばかりの信徒で御座いました。今後今迄の事を凡て打はらつて新しい生涯に入りませう。

○

信者ですけれども再び罪の自己が死んでキリストの愛に甦りたいそしてイエスの十字架を負つて行きたいと決心しました。

○

生くるも死ぬるも主の爲に全部をさゝげて神と人との爲に献身致します。

以上は修養會の折既に信者の方が更に新しい奉仕の決心を書き現はれた十八人の内の一部です

受洗決心をされた方々は十二人で其中の一二を擧げますと。

○

只今から神の子として立つ固い決心をいたしました、

○

神の慈愛の最上をつくして十字架におかゝり下さいましたこの恵に對して今までの自分の他の人の爲につくさず又度々神に不從順であつた事を深く悔います將來キリストによらずにたつ事は出來ません。

○

私は二年程前から神樣といふことはよく判つて居ますがどうしても神に從順になれません。ともすればそこに自我が働きます。それを祈りたい思ひます。

讀書紹介

花咲く家

定價　一圓五十錢
送料　十二錢

原著者はペリー氏で此の本誌に毎月お面白いお話を少女方の爲にお書き下さる村岡花子夫人の譯されたもので淸い美しい意志の強い乙女が戀と生活問題とを同時に考へねばならぬ運命の下に戰ひ悲しみを胸に秘めて奉仕の生活に人々の心に花咲かせ多くの人々を敎化し行き最後の勝利を得る迄に天眞爛漫な無邪氣な幼子があやつりの糸となり、小供の智慧もて開かせる人の心を解く美しい物語です。輕妙な筆につひつられて一息に讀ませられます。笑つたり泣いたりして讀む中に尊いものを得られます。御讀みになりたい方は本部へ御申込み下さいますれば直ちに御送り申上ます。

新刊紹介

禁酒小說　酒の魔がつみ　石田良助著

禁酒運動は漸く盛になつて來たしかし魔王の捕虜になつた者はなか〳〵止められぬ。禁酒家が幾人か出來る間に飮酒家は何十何百人出來つゝある。上等の白米が惜しげもなく酒に變つて常食不足の爲に外米を入れねばならなくなる。家庭の不幸、社會の不幸、それ等が直接關接に酒の害が原因である事がどんなに多い事であらう。此時に酒害の慘毒を防禦芟除する爲に本小說は生れ出たのである。十四種の短編を集めたもので、平易に興味多く書いてある。

定價　九拾錢

發賣所　東京麹町區三丁目　丁未出版社

消息

□河井道子氏　同氏は渡邊百合子氏と御同伴にて福島縣勿來にて本夏を過さる九月四五日頃御歸京の筈

□ミス・ゼエーレンスコット　上洲伊香保で一人ぼつちで靜かな夏を過されつゝあり

□ミスレオナスコット　修養會後直に相州箱根に避暑さる同地には横濱青年會のミスベリーミスアーレンなども行かれし事なればボート漕山登にさぞ樂しかるべし

□ミセスウツト　仙臺及北海道にミスマーシユなどと共に旅行中

□ミスヒラー　ミスクローマー御辭職其後を受けタイピストとして七月の初めより本部に來らる、横濱から御通勤

□横澤つぎ子氏　同氏の御令弟は久しく御病氣の所七月の末遂ひに御永眠醫科大學御卒業間際の前途有望の方を失はれしは哀惜の至

□山本琴子氏　二ケ年米國にあつて勉學されし姉は八月十一日御歸朝九月よりは京都女子青年會の總幹事として御赴任

□中西司娜子氏　山本氏と御一諸に渡米されし氏は二ケ年間に十年二十年間に得る程の新知識と刺戟とを受けられたと言ふお元氣さて八月十一日御歸國九月からは以前居られし東京青年會にて學生部の方に御活動のよし

□ミスマーシユ　日語學校に通ひ且つ東京青年會にて英語を教へて居られし氏は九月より大阪女子青年會にて働かるゝ事となつたり。

□淺井治子氏　本夏を伊豆大島にて過さる近報に「たつた靈岸島から六時間の所ですが容易に歸れない離れ孤島と思ひますと何だか浮世をはなれた氣が致します。」

□ディーコンネス、ナツプ氏　は八月下旬、英學塾の卒業生數名と共に歸米の途につかる

編輯の後に

殊の外お暑かつた夏も過ぎました。九十六度餘お湯の中に入つてるやうな日だと言つたのも昨日の夢草叢にすだく蟲の音いよ〳〵高く、朝夕は涼しいそよ風が訪れてブキ〳〵とした元氣を持つて來てくれます。

青田の稻もたり穗となる日近く生の力に充て居ます。長い休の後の新學期學校においでの方々はさぞいろ〳〵の御決心や御計畫ゝ遊してゐる事でせう。家庭においで遊す方々もお仕事が澤山待つて居ませう。働きつゝ努めつゝ深みある高みある擴みある生活へ愉の翼をのばして飛行きませう。

備考

一御注文は一切前金に願ひます
一御送金は振替でお拂込み下さる事が便利で安全です。但手數料一錢をお加へ下さい。郵便切手代用は一割增
振替東京貳參七貳參番

定價郵稅共

	内地	海外
一部	金貳拾錢	金貳拾四錢
一年前金	貳圓	金貳圓五拾錢

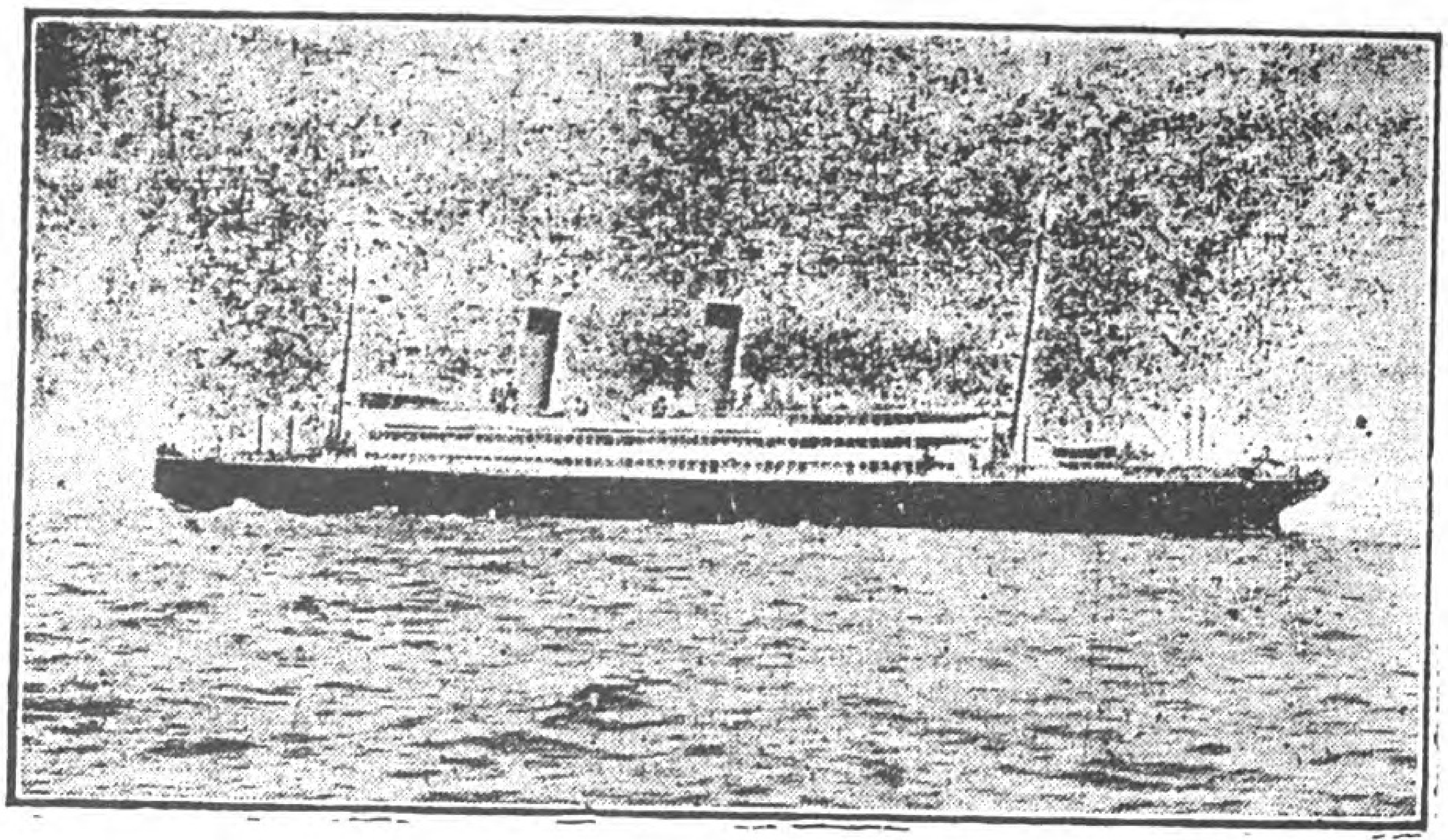
廣告料

一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正十一年八月廿八日印刷納本
大正十一年九月一日發行
神田區錦町一丁目十六番地
發行兼編輯人　河井道子
東京市芝區櫻田和泉町七番地
印刷人　前川吉治郎
右同所
印刷所　三成舍
神田區錦町一丁目十六番地
發行所　日本基督敎女子青年會
電話神田三六五二番
振替口座東京二三七二三番

東洋汽船株式會社



本社　東京市麴町區永樂町一丁目一番地（電話丸ノ内一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三番）

營業所　横濱市山下町五番（電話本局四四〇〇、四四〇一、四四〇二、四四〇三、四四〇四番）

出張所　神戸市海岸通七番地。香港、キングス、ビルヂング。上海四川路ノース、チャイナ、インシユランス。ビルヂング。マニラ、チャコビルヂング。桑港、マーケット街六五二、マーチャンツ、ナショナル、バンク、ビルヂング。紐育、ブロードウエイ、一六五。ホノルル、アレキサンダー、ヤング、ビルヂング。

北米航路（桑港、布哇ホノルル、横濱、神戸、長崎、上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穩なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

大洋丸	排水量二二、〇〇〇噸
天洋丸	同二二、〇〇〇噸
春洋丸	同二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	同二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同二〇、〇〇〇噸
波斯丸	同九、〇〇〇噸

さいべりや丸波斯丸は往復共大連に寄港す
大連航路の偉觀なり

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量一八、七〇〇噸
銀洋丸	同一六、〇〇〇噸
樂洋丸	同一八、五〇〇噸
靜洋丸	同一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設備あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

女子青年界第拾九卷第九號（毎月一回一日發行）
大正十一年七月廿八日印刷納本 大正十一年九月一日發行 明治卅七年五月七日第三種郵便物認可